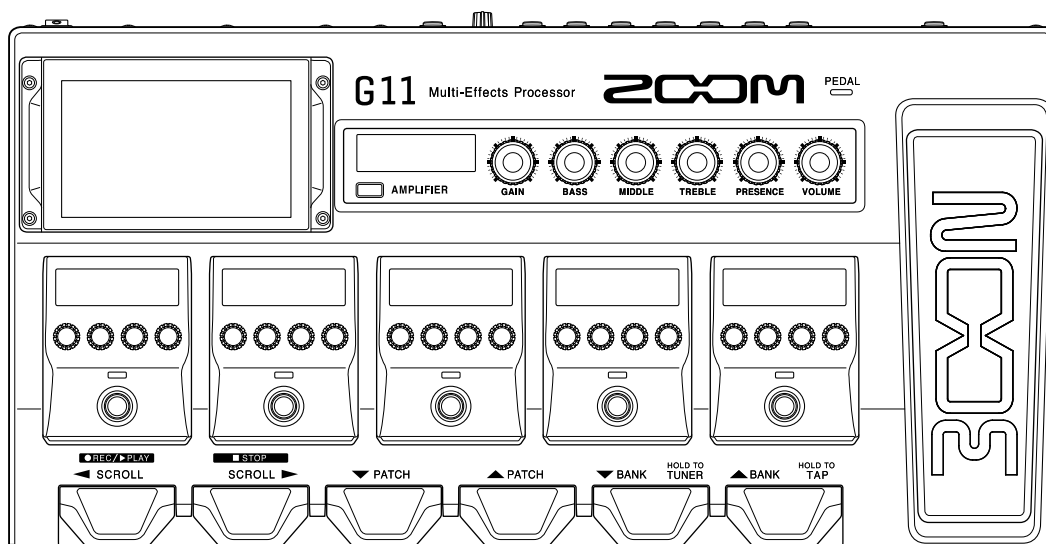


G11

Multi-Effects Processor



オペレーションマニュアル

ご使用になる前に「安全上の注意／使用上の注意」を必ずお読みください

© 2020 ZOOM CORPORATION

本マニュアルの一部または全部を無断で複製／転載することを禁じます。
 文中の製品名、登録商標、会社名は、それぞれの会社に帰属します。文中のすべての商標および登録商標は、
 それらの識別のみを目的として記載されており、各所有者の著作権を侵害する意図はありません。
 白黒端末では正しく表示できません。

オペレーションマニュアルについて

このマニュアルは将来必要となることがありますので、必ず参照しやすいところに保管してください。
本書の内容および製品の仕様は予告なしに変更されることがあります。

© Windows® は、Microsoft® 社の商標または登録商標です。

© iPhone、iPad、iPadOS および Mac は、Apple Inc. の商標です。

© App Store は、Apple Inc. のサービスマークです。

© iOS は、米国 Cisco の商標または登録商標です。

© 文中のその他の製品名、登録商標、会社名は、それぞれの会社に帰属します。

* 文中のすべての商標および登録商標は、それらの識別のみを目的として記載されており、各所有者の著作権を侵害する意図はありません。

はじめに

このたびは、ZOOM マルチエフェクトプロセッサ **G11** をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

マルチエフェクトプロセッサには、初めから多くのエフェクトが搭載されており、複数のエフェクトを組み合わせで使用することができます。エフェクトの組み合わせやパラメータの設定は、パッチメモリーとして本体に保存し、いつでも使うことができます。あらかじめプリセットされているパッチメモリーを切り替えるだけで劇的なサウンド変化が得られます。

簡単に色々な音を楽しめるのがマルチエフェクトプロセッサです。
末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

G11 の主な特長

進化し続けるアンプ／エフェクトサウンド

パワーアップした DSP 処理能力を生かしたオリジナルアンプとオリジナルエフェクトを搭載。
最新 G シリーズの資産から、実機を忠実にエミュレートした迫真のアンプ／キャビネットモデルと、ブティックペダルを含む珠玉のエフェクト・コレクションも搭載。無料のエフェクト管理ソフトウェア Guitar Lab を使用すると、オンラインで配信されるエフェクトの追加や、パッチメモリーの編集／バックアップなどをパソコン (Mac/Windows) や iOS/iPadOS デバイスで行うことができます。

簡単操作で直感的な音作り

5 インチのタッチスクリーンを採用し、わかりやすいインターフェースを実現。
アンプセクションとエフェクトセクションには専用ディスプレイと操作子を備え直感的な音作りができます。

インパルス・レスポンス (IR) ローダー

サンプリング周波数 44.1 kHz ~ 192 kHz の WAV 形式 IR データに最大 2048 サンプルまで対応。
サードパーティ製インパルス・レスポンス (IR) をロードすることによりキャビネットの選択は無限。

2 系統のセンド／リターンと MIDI で柔軟なサウンドシステム構築

2 系統のセンド／リターンは、お気に入りのエフェクターをどの位置にも配置でき、ギターアンプのセンド／リターン端子を利用した 4 ケーブルメソッドシステムにも対応可能です。
MIDI 端子を併用することでさらに拡張性のあるサウンドシステムを構築可能です。

リズムパターンとルーパーを搭載

リズムとルーパーはアンプ／エフェクトから独立しているので、いつでも使用できます。
リズムパターンと同期できるルーパー機能は、ステレオで最大 5 分まで録音することができます。

4IN/4OUT の USB オーディオインターフェース

USB オーディオインターフェースは、G11 のステレオ出力とエフェクト処理前のドライ信号を同時に DAW に録音できる他、演奏データのリアンプにも対応できます。

iOS/iPadOS デバイスからのリモート操作

専用無線アダプター (ZOOM BTA-1) を接続すると iOS/iPadOS デバイスで Guitar Lab が利用可能になります。

用語について

パッチメモリー

使用エフェクト、アンプ、エフェクトのON/OFFやパラメーターの設定値を記録したものを“パッチメモリー”と呼び、簡単に呼び出すことができます。エフェクトの呼び出しや保存はパッチメモリー単位で行います。1つのパッチメモリーには最大9エフェクト+1アンプモデルが登録でき、240個まで保存できます。

バンク

パッチメモリーを4個単位でひとまとめにしたものを“バンク”と呼び、バンクを切り替えることでパッチメモリーを素早く呼び出せます。バンクは60個まで保存できます。

エフェクトタイプ

エフェクトタイプには各種ギターエフェクトや、アンプ/キャビネットのシミュレーションモデルが用意されています。パッチメモリーに登録するエフェクトは、エフェクトタイプの中から選択できます。

カテゴリ

エフェクトは種類ごとにカテゴリ分けされています。

プリセレクト

選択しているパッチメモリーの音色を保持したまま、離れた番号のパッチメモリーに切り替えることができる機能です。

オートセーブ

パッチメモリーやエフェクトの設定変更を自動的に保存する機能です。

ECOモード

操作をやめてから10時間経過したときに電源を自動的にオフする機能です。

ルーパー

フレーズを録音して最大でステレオ5分のフレーズを録音し、繰り返し再生することができます。

フレーズを重ねることで、アカペラのコーラスやボイス・パーカッションなど多彩なライブパフォーマンスに対応します。

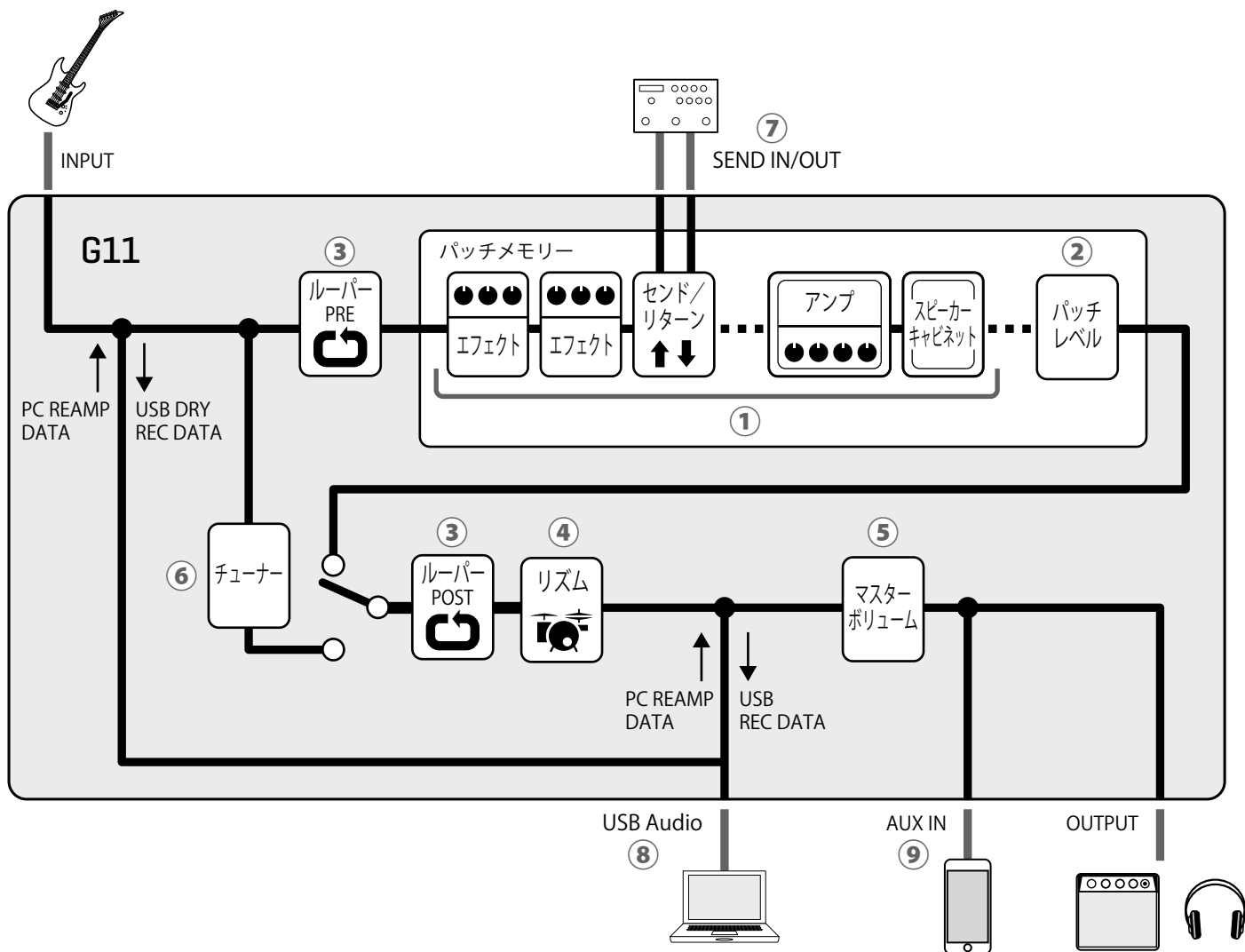
目次

オペレーションマニュアルについて	2	バンクを管理する	46
はじめに	3	バンクの並び順を変更する	46
用語について	4	バンクを削除する	47
G11 の構成	7	バンクを作成する	49
タッチスクリーンの操作について	9	エクスプレッションペダルを使用する	51
各部の役割	11	内蔵のペダルを使用する	51
接続する	17	ペダルを調節する	53
電源を ON/OFF する	18	外部ペダルを使用する	55
電源を入れる	18	チューナーを使用する	57
電源を切る	18	チューナーを有効にする	57
全体の音量を調節する	19	チューナーの設定を変更する	58
パッチメモリー名を表示して演奏する	20	リズムを使用する	60
エフェクトボード全体を表示して演奏する	21	リズムを有効にする	60
バンク名を表示して演奏する	22	リズムを設定する	61
エフェクトを調節する	23	リズムを再生/停止する	65
エフェクトを ON/OFF する	23	リズムパターン	66
アンプ/エフェクトを変更する	24	ルーパーを使用する	67
アンプを調節する	27	ルーパーを有効にする	67
エフェクトを調節する	28	ルーパーを設定する	68
エフェクトの並び順を変更する	30	フレーズを録音/再生する	73
エフェクトを追加する	31	フレーズのオーバーダビング	75
エフェクトを削除する	33	フレーズを消去する	76
全ての設定を一つの画面で行う	34	センド/リターンを使用する	77
パッチメモリーの音量を設定する	37	MIDI 機器を接続する	80
パッチメモリーの名前を変更する	38	MIDI 機器を接続してできること	80
マスターテンポを調節する	39	パッチメモリーの MIDI 送信設定を行う	81
パッチメモリーを管理する	40	その他の MIDI 設定を行う	83
パッチメモリーを保存する	40	インパルス・レスポンス (IR) を使用する	86
パッチメモリーの並び順を変更する	42	インパルス・レスポンス (IR) を使用する	86
パッチメモリーを削除する	43	インパルス・レスポンス (IR) データを 読み込む	87
パッチメモリーを作成する	44	オーディオインターフェース機能を使用する	89
		ドライバをインストールする	89
		パソコンに接続する	90
		オーディオインターフェースの設定をする	91
		iOS/iPadOS デバイスと接続する	93

本体の設定をする	94
出力の基準レベルを設定する.....	94
オートセーブを設定する.....	95
プリセレクトを設定する.....	96
ディスプレイの明るさ、コントラストを 調節する.....	97
ECO モードを設定する	98
ファームウェアを管理する	99
ファームウェアのバージョンを確認する.....	99
ライセンス情報を確認する.....	100
アップデートする.....	101
工場出荷時の設定に戻す.....	102
故障かな?と思う前に	103
仕様	104
MIDI インプリメンテーションチャート	105

G11 の構成

■ 信号の流れ



①入力されたギターの声は、エフェクト、アンプ、スピーカーキャビネットを順に経由します。
(→ [23 ページ「エフェクトを調節する」](#))

②パッチメモリーのレベルを調節します。
(→ [37 ページ「パッチメモリーの音量を設定する」](#))

③録音したフレーズをループ再生できます。ルーパーの配置は PRE と POST から選択することができます。
(→ [67 ページ「ルーパーを使用する」](#))

④内蔵のリズムパターンでドラム音源を再生することができます。
(→ [60 ページ「リズムを使用する」](#))

⑤全体の音質を調節します。パッチメモリーを切り替えても設定は保持されます。
(→ [19 ページ「全体の音量を調節する」](#))

- ⑥接続したギターチューニングを行うための機能です。
(→ [57 ページ「チューナーを使用する」](#))
- ⑦外部エフェクターを2系統まで使用できます。
(→ [77 ページ「センド／リターンを使用する」](#))
- ⑧オーディオインターフェース機能でパソコンと音声データのやり取りができます。
(→ [89 ページ「オーディオインターフェース機能を使用する」](#))
- ⑨スマートフォン、携帯音楽プレーヤーなどの音声を再生することができます。

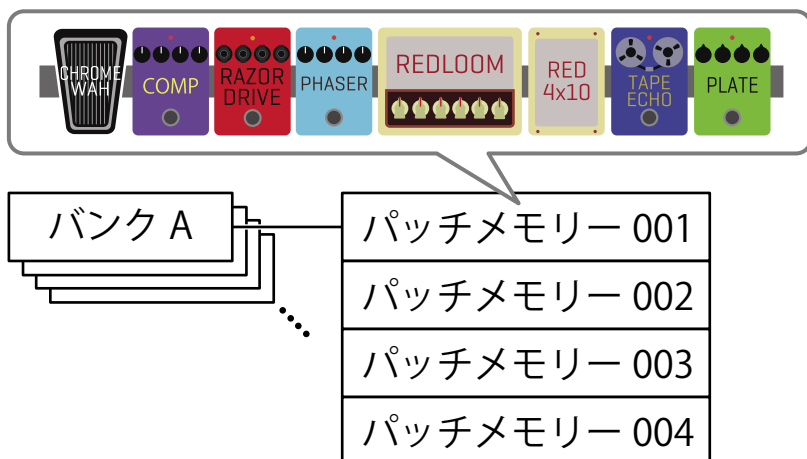
■ メモリー概念 (パッチメモリー／バンク)

パッチメモリー

使用エフェクト、並び順、各エフェクトの ON/OFF やパラメーターの設定値を記録したものです。エフェクトの呼び出しや保存はパッチメモリー単位で行い、240 個のパッチメモリーを記録することができます。

バンク

パッチメモリーを4個単位でひとまとめにしたものです。60個のバンクを記録することができます。



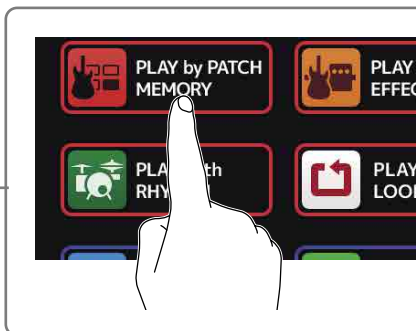
タッチスクリーンの操作について

G11 は操作や設定をタッチスクリーンで行うことができます。
ここではタッチスクリーンの操作のしかたについて説明します。

■ ホーム画面について

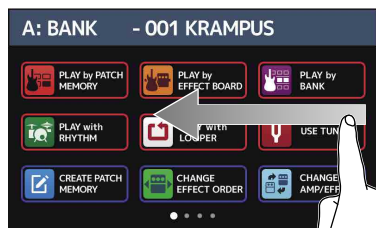
G11 の電源を入れたときにタッチスクリーンに表示される画面です。
全ての機能をアイコンにして配置し、タッチすることにより簡単に各機能にアクセスすることができます。

選択中のバンク 選択中のパッチメモリー

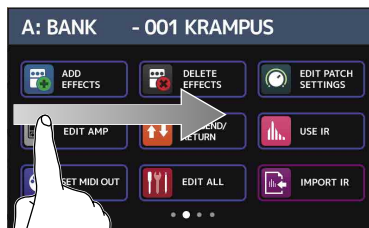


アイコンをタッチして設定／調節したい機能を選択します。

ホーム画面は 4 ページあり、現在表示されている画面の位置を示しています。



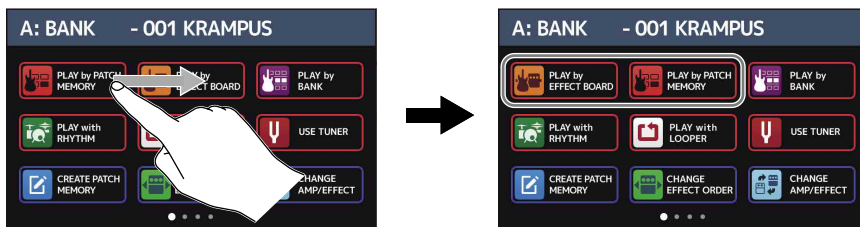
次のページを表示：右端から左にスワイプ



前のページを表示：左端から右にスワイプ

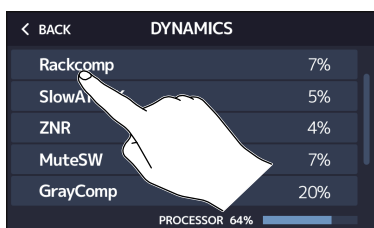
HINT

ホーム画面のアイコンは、ドラッグ（タッチしたまま左右／上下に移動）して並び替えることができます。



■ 各機能画面の操作

タッチやドラッグで操作を行います。



項目選択：タッチ

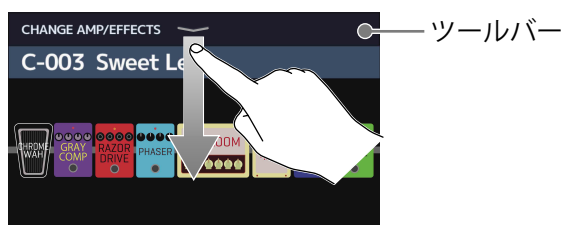


移動／調節：ドラッグ（タッチしたまま左右／上下に移動）



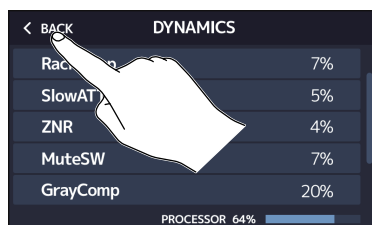
■ ホーム画面に戻るには

各機能の操作画面からホーム画面に戻るには、タッチスクリーン上端のツールバーから下方向へスワイプします。



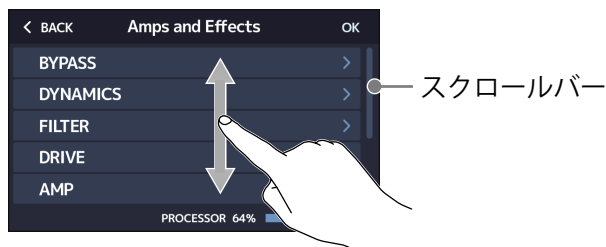
■ 一つ前の画面に戻るには

タッチスクリーン左上に「BACK」が表示されているときは、タッチすると一つ前の画面戻ることができます。



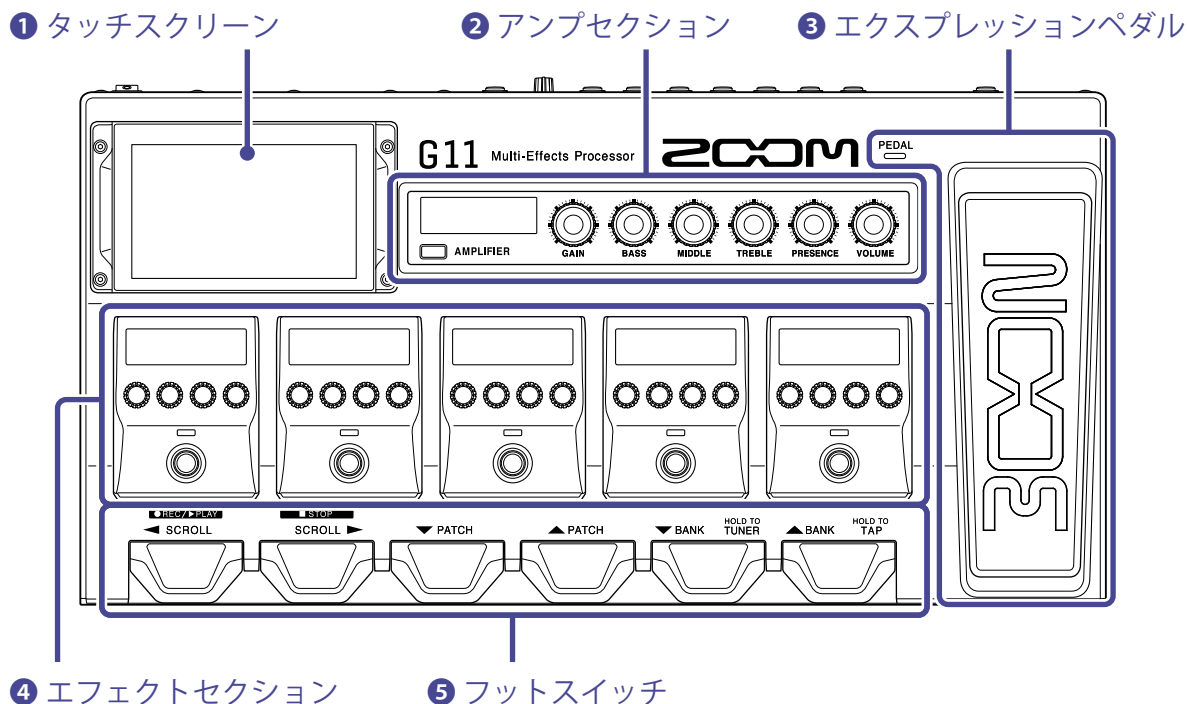
■ リスト項目をスクロールするには

リスト項目が多くタッチスクリーン内に項目が収まりきらないときは、右端にスクロールバーが表示されます。タッチスクリーンを上または下にドラッグすると、表示をスクロールすることができます。



各部の役割

■ フロントパネル

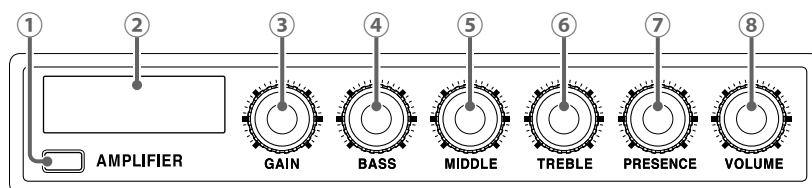


① タッチスクリーン

パッチメモリーやバンクの選択、設定、G11 本体の設定などをタッチ操作で行えます。
操作のしかたについては、[9 ページ「タッチスクリーンの操作について」](#)をご覧ください。

② アンプセクション

アンプを調節します。
専用ノブとディスプレイで実際のアンプのように調節ができます。



① アンプキー

アンプの ON/OFF を切り換えます (ON 時は点灯します)。

② アンプディスプレイ

選択中のアンプ名や調節中のパラメーター値を表示します。

③ GAIN ノブ

ゲインを調節します。

④ BASS ノブ

低域を調節します。

⑤ MIDDLE ノブ


中域を調節します。

- ⑥ **TREBLE ノブ**
高域を調節します。
- ⑦ **PRESENCE ノブ**
高域を中心にゲインを上げます。
- ⑧ **VOLUME ノブ**
音量を調節します。

NOTE

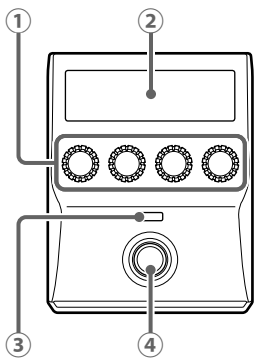
調節できる項目は選択しているアンプによって変わります。

③ エクスプレッションペダル

エクスプレッションペダルを使用して音量やワウ効果などを調節できます。ペダル先端部を踏み込むと、ペダルエフェクトの ON/OFF を切り換えます (ON 時は  が点灯します)。

④ エフェクトセクション

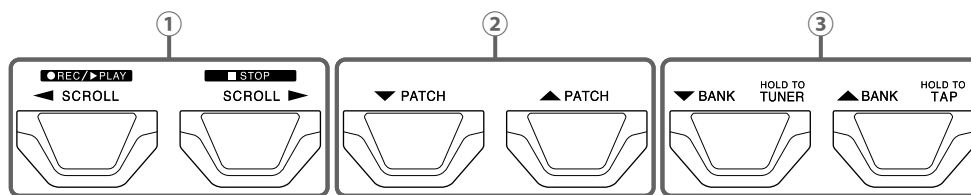
エフェクトを調節します。
ストンプボックス感覚で ON/OFF、調節ができます。



- ① **パラメーターノブ**
パラメーターを調節します。
- ② **エフェクトディスプレイ**
エフェクトタイプ、カテゴリ、パラメーターを表示します。
- ③ **エフェクトインジケーター**
エフェクト ON 時に点灯します。
- ④ **フットスイッチ**
エフェクトの ON/OFF を切り換えます。

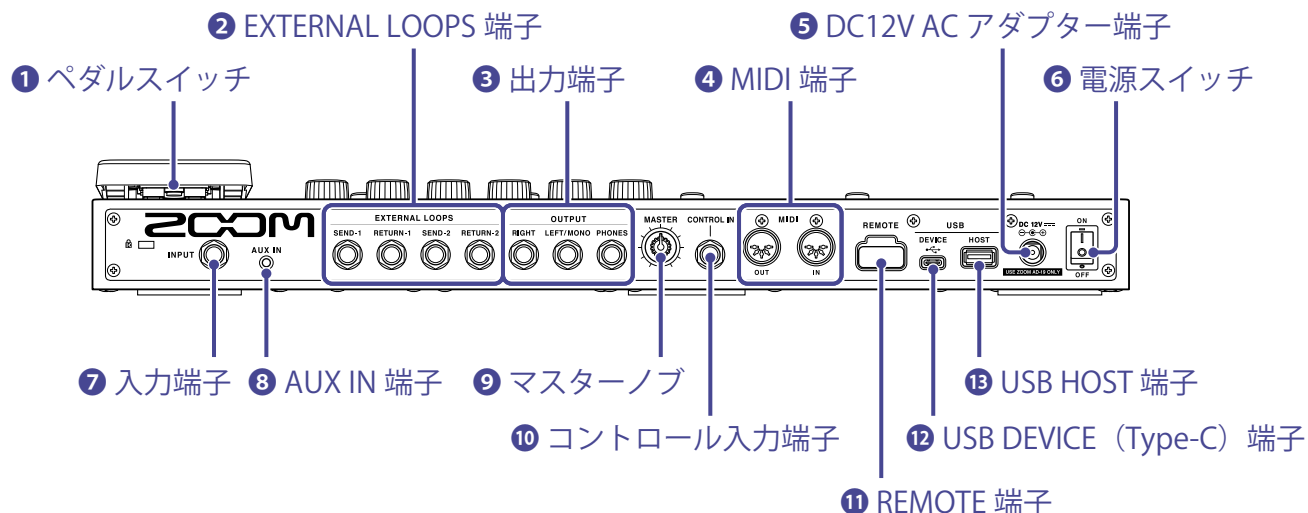
⑤ フットスイッチ

パッチメモリーやバンクの選択、チューナーの起動、ルーパーやリズムの操作を行います。



- ① **スクロール◀/▶スイッチ**
エフェクトセクションで表示・操作できるエフェクトをスクロールします。
ルーパー操作時：フレーズの録音や再生、停止などの操作を行います。
リズム操作時：リズムを再生、停止します。
- ② **パッチメモリー▼/▲スイッチ**
パッチメモリーを選択します。
- ③ **バンク▼/▲スイッチ**
バンクを選択します。
バンク▼スイッチを長押しすると、チューナーを使用できます。
バンク▲スイッチを長押しすると、エフェクトのタップ操作ができます。

■ リアパネル



① ペダルスイッチ

エクスプレッションペダル効果の ON/OFF を切り換えます。

② EXTERNAL LOOPS 端子

外部エフェクターを接続します (2 系統)。

- SEND-1、SEND-2 端子：外部エフェクターの入力端子と接続します。
- RETURN-1、RETURN-2 端子：外部エフェクターの出力端子と接続します。

③ 出力端子

ギターアンプ、モニタースピーカー、ヘッドフォンを接続します。

- RIGHT 端子：ステレオ出力する場合、入力端子の右チャンネルと接続します。
- LEFT/MONO 端子：ギターアンプと接続します。ステレオ出力する場合、入力端子の左チャンネルと接続します。
- PHONES 端子：ヘッドフォンを接続します。

④ MIDI 端子

MIDI 機器を接続します。

- OUT 端子：MIDI 機器の MIDI IN 端子と接続します。
- IN 端子：MIDI 機器の MIDI OUT 端子と接続します。

⑤ DC12V AC アダプター端子

専用の AC アダプター (ZOOM AD-19) を接続します。

⑥ 電源スイッチ

電源を ON/OFF します。

⑦ 入力端子

ギターを接続します。

⑧ AUX IN 端子

携帯音楽プレーヤーなどを接続します。

⑨ マスターノブ

G11 の音量を調節します。

⑩ コントロール入力端子

エクスプレッションペダル (ZOOM FP02M) を接続して、ペダルエフェクトの調節をします。

⑪ REMOTE 端子

専用無線アダプター (ZOOM BTA-1 など) を接続します。

iOS/iPadOS アプリケーション Guitar Lab を使って、iPhone/iPad からワイヤレスで **G11** を操作できます。

⑫ USB DEVICE (Type-C) 端子

パソコンを接続します。

G11 をオーディオインターフェースとして使用したり、Guitar Lab を使って **G11** を操作できます。

⑬ USB HOST 端子

USB メモリ (USB2.0/3.0) を接続します。

IR データを取り込んだり、ファームウェアアップデートを行います。

■ ホーム画面

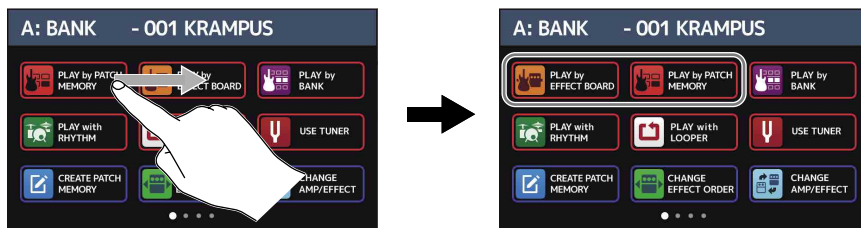
ホーム画面に表示されるアイコンの機能一覧です。

アイコン	説明	アイコン	説明
 PLAY by PATCH MEMORY	タッチスクリーンにパッチメモリー名を大きく表示してパッチメモリーを選択します。(→ 20 ページ)	 PLAY by EFFECT BOARD	タッチスクリーンにパッチメモリーで使用しているエフェクトを表示します。(→ 21 ページ)
 PLAY by BANK	バンク内の4つのパッチメモリーをフットスイッチで選択できます。(→ 22 ページ)	 PLAY with RHYTHM	リズムを使用します。(→ 60 ページ)
 PLAY with LOOPER	ルーパーを使用します。(→ 67 ページ)	 USE TUNER	チューナーを使用します。(→ 57 ページ)
 CREATE PATCH MEMORY	パッチメモリーを作成します。(→ 44 ページ)	 CHANGE EFFECT ORDER	パッチメモリーのエフェクトを並び替えます。(→ 30 ページ)
 CHANGE AMP/EFFECT	パッチメモリーのエフェクト／アンプを変更します。(→ 24 ページ)	 ADD EFFECTS	パッチメモリーにエフェクトを追加します。(→ 31 ページ)
 DELETE EFFECTS	パッチメモリーからエフェクトを削除します。(→ 33 ページ)	 EDIT PATCH SETTINGS	パッチメモリー名やパッチレベルとMIDI OUTの設定を行います。(→ 37 ページ 、 38 ページ 、 81 ページ)
 EDIT AMP	アンプを調節します。(→ 27 ページ)	 USE SEND/RETURN	SEND/リターンの設定を行います。(→ 77 ページ)
 USE IR	IR ロード機能を使用します。(→ 86 ページ)	 SET MIDI OUT	パッチメモリーのMIDI出力の設定を行います。(→ 81 ページ)
 EDIT ALL	パッチメモリーの全ての設定を行います。(→ 34 ページ)	 IMPORT IR	IR データを読み込みます。(→ 87 ページ)
 CREATE BANK	バンクを作成します。(→ 49 ページ)	 CHANGE BANK ORDER	バンクの並び順を変更します。(→ 46 ページ)
 CHANGE PATCH MEMORY ORDER	パッチメモリーの並び順を変更します。(→ 42 ページ)	 DELETE BANK	バンクを削除します。(→ 47 ページ)
 DELETE PATCH MEMORY	パッチメモリーを削除します。(→ 43 ページ)	 SAVE PATCH MEMORY	パッチメモリーを保存します。(→ 40 ページ)
 SET OUTPUT	出力レベルをINSTとLINEから選択します。(→ 94 ページ)	 SET TEMPO	エフェクトやリズム、ルーパーで使用するテンポを設定します。(→ 39 ページ)

アイコン	説明	アイコン	説明
	チューナーの詳細設定を行います。 (→ 58 ページ)		USB オーディオの設定を行います。 (→ 91 ページ)
	MIDI 設定を行います。 (→ 83 ページ)		ペダルの詳細設定を行います。 (→ 53 ページ 、 55 ページ)
	システム設定の変更や確認を行います。 (→ 94 ページ 、 95 ページ 、 96 ページ 、 99 ページ)		オートセーブ機能の ON/OFF を切り換えます。 (→ 95 ページ)
	各画面の明るさ/コントラストの調節、ECO モードの ON/OFF を切り換えます。 (→ 97 ページ 、 98 ページ)		

HINT

ホーム画面のアイコンは、ドラッグ（タッチしたまま左右／上下に移動）して並び替えることができます。



接続する

外部エフェクター (2 系統)

SEND (1 または 2) 端子をエフェクターの入力端子、RETURN (1 または 2) 端子をエフェクターの出力端子に接続します。

外部 MIDI 機器

MIDI ケーブルで接続します。

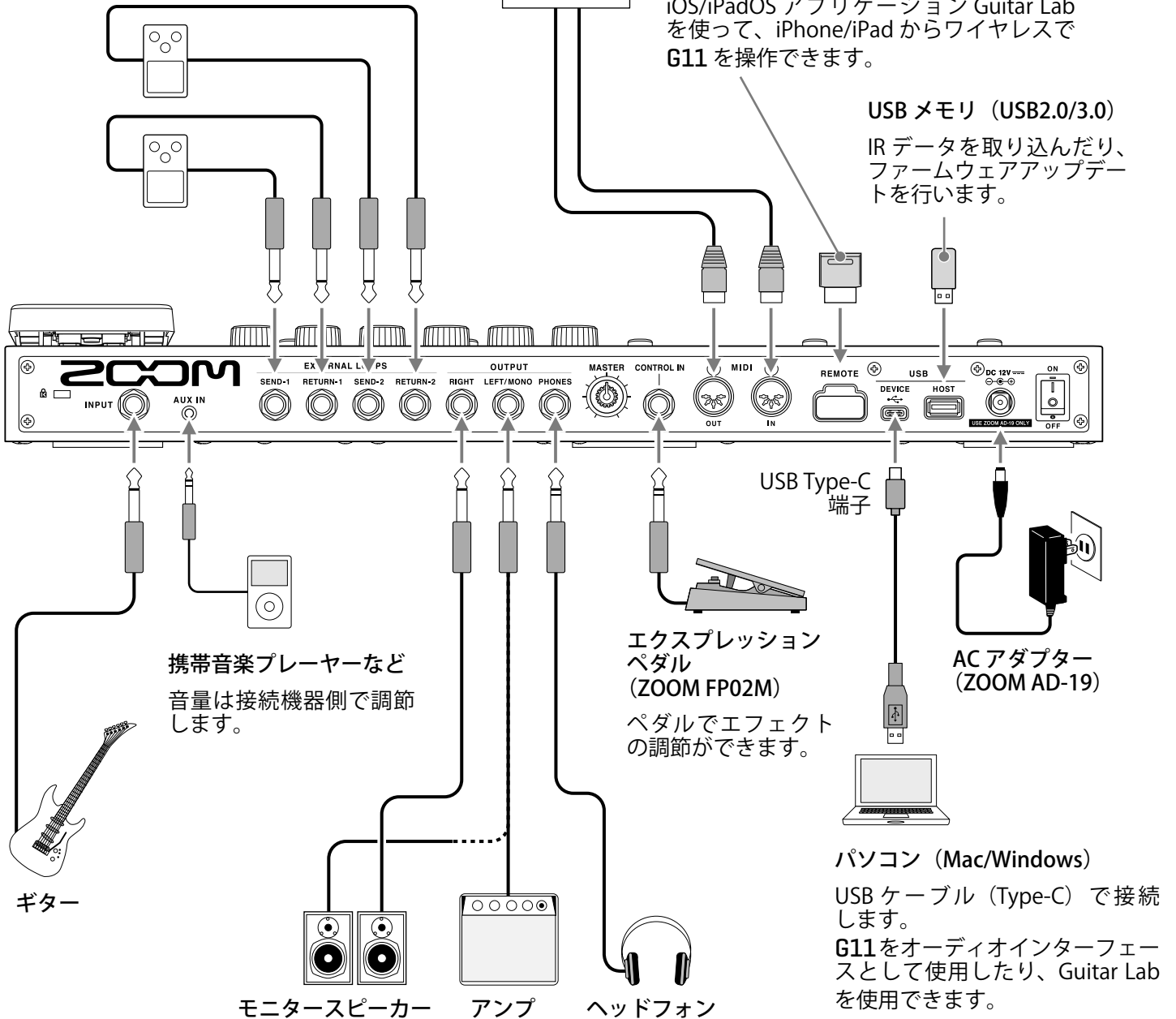
外部 MIDI 機器と G11 を連携して使用できます。

専用無線アダプター (ZOOM BTA-1 など)

iOS/iPadOS アプリケーション Guitar Lab を使って、iPhone/iPad からワイヤレスで G11 を操作できます。

USB メモリ (USB2.0/3.0)

IR データを取り込んだり、ファームウェアアップデートを行います。



携帯音楽プレーヤーなど
音量は接続機器側で調節
します。

エクスプレッション
ペダル
(ZOOM FP02M)
ペダルでエフェクト
の調節ができます。

AC アダプター
(ZOOM AD-19)

パソコン (Mac/Windows)

USB ケーブル (Type-C) で接続
します。

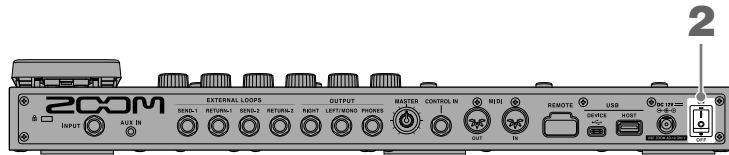
G11 をオーディオインターフェ
ースとして使用したり、Guitar Lab
を使用できます。

HINT


パソコン用アプリケーションまたは iOS/iPadOS アプリケーション「Guitar Lab」を使用すると、パッチメモリーの管理やエフェクトの編集・追加が可能です。「Guitar Lab」は、ZOOM の WEB サイト (www.zoom.co.jp) からダウンロードできます。

電源を ON/OFF する

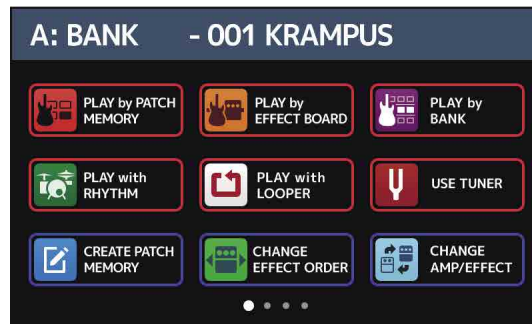
電源を入れる



1. アンプやモニタースピーカーの音量を最小にする

2.  を "ON" にする

G11 の電源が入り、タッチスクリーンにホーム画面が表示されます。



3. アンプやモニタースピーカーの音量を上げる

ECO モードについて


- 初期設定では ECO モードが "ON" に設定されており、操作が行われなまま 10 時間が経過すると、自動的に電源が切れます。
- ECO モードは、"OFF" にすることもできます。(→ [98 ページ「ECO モードを設定する」](#))

HINT

電源を入れると、前回電源を OFF にしたときの状態で立ち上がります。

電源を切る

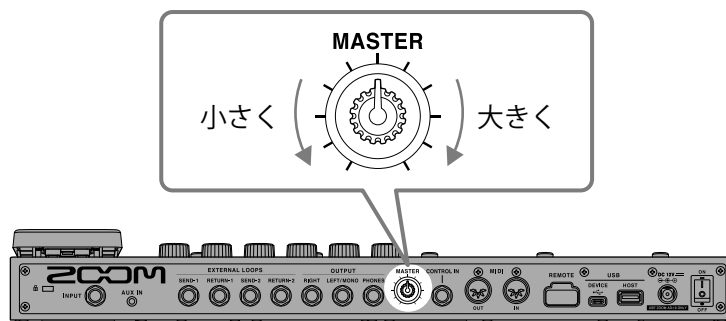
1. アンプやモニタースピーカーの音量を最小にする

2.  を "OFF" にする

タッチスクリーンの表示が消えます。

全体の音量を調節する

G11 から出力する音量を調節します。



NOTE

- 設定範囲は $-\infty \sim +6$ dB です。
- ノブ中央で 0 dB 設定となります。

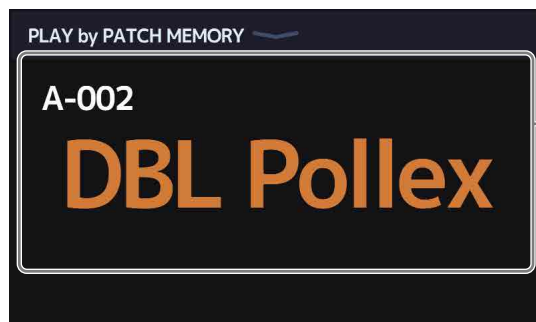
HINT

出力機器に合わせて G11 の出力レベルを設定できます。(→ [94 ページ「出力の基準レベルを設定する」](#))

パッチメモリー名を表示して演奏する

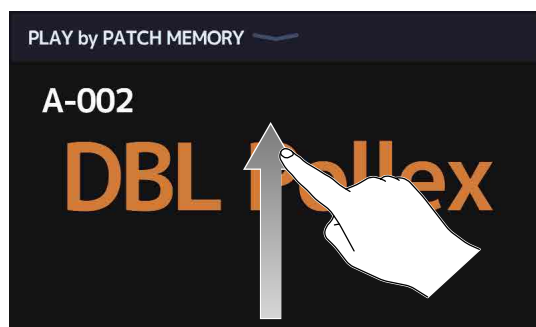
タッチスクリーンにパッチメモリー名を大きく表示して、パッチメモリーを選択します。

1. ホーム画面で  をタッチする

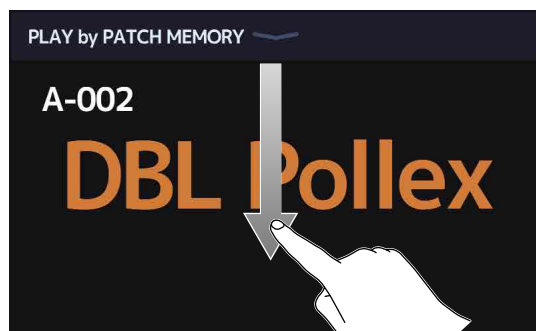


— 選択中のパッチメモリー



2. タッチスクリーンを上方向または下方向にスワイプしてパッチメモリーを選択する
 - 次のパッチメモリーを選択します。





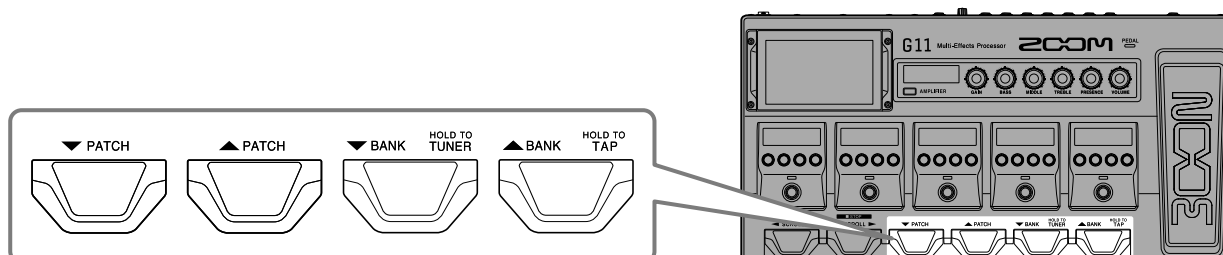
- 前のパッチメモリーを選択します。



HINT

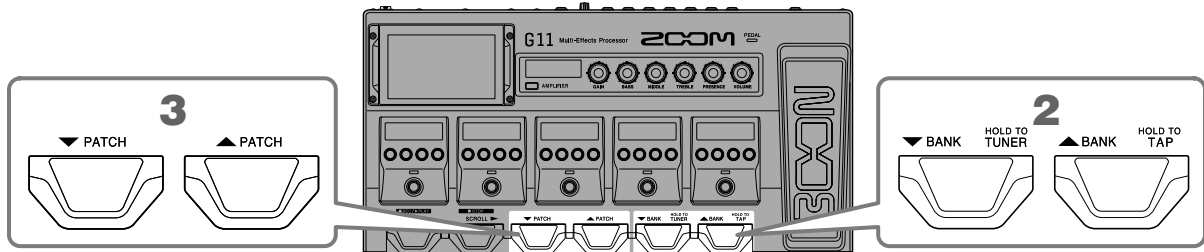
 または  を押して前/次のパッチメモリーを選択することもできます。

 または  を押すと、前/次のバンクのパッチメモリーを選択できます。



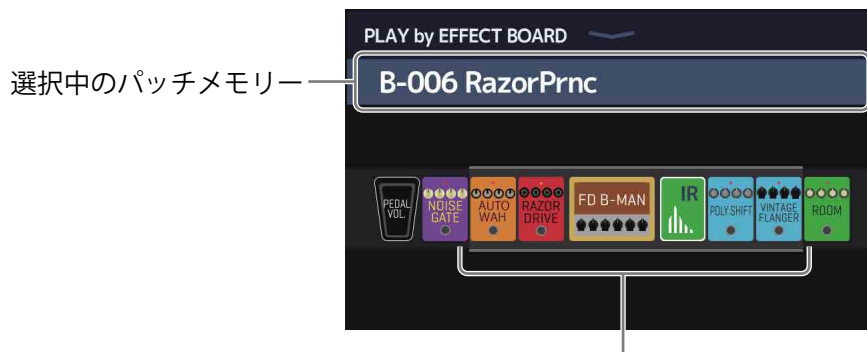
エフェクトボード全体を表示して演奏する

パッチメモリーで使用しているエフェクトやアンプを確認しながらフットスイッチでパッチメモリーを選択します。





1. ホーム画面で  をタッチする



パッチメモリーで使用しているエフェクトやアンプが一目で確認できます。



エフェクトセクションで操作できるエフェクトを示しています。

2.  または  を押す


バンクを選択します。

3.  または  を押す

パッチメモリーを選択します。

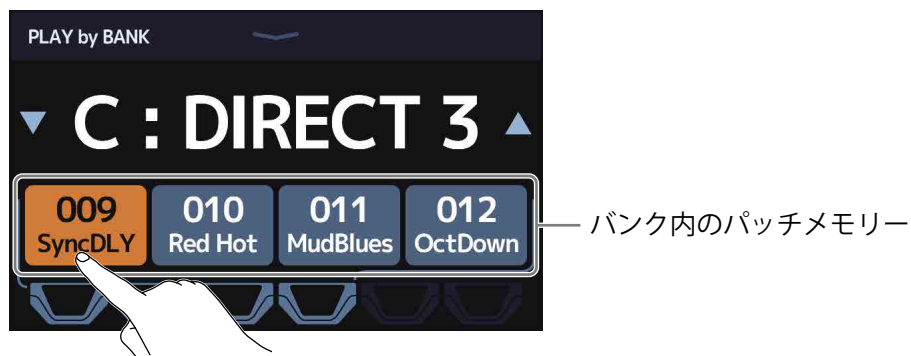
バンク名を表示して演奏する

タッチスクリーンにバンクを表示して、バンク内の4つのパッチメモリーをワンタッチで選択します。

1. ホーム画面で  をタッチする
2. バンク名両側の ▼ または ▲ をタッチしてお好みのバンクを選択する





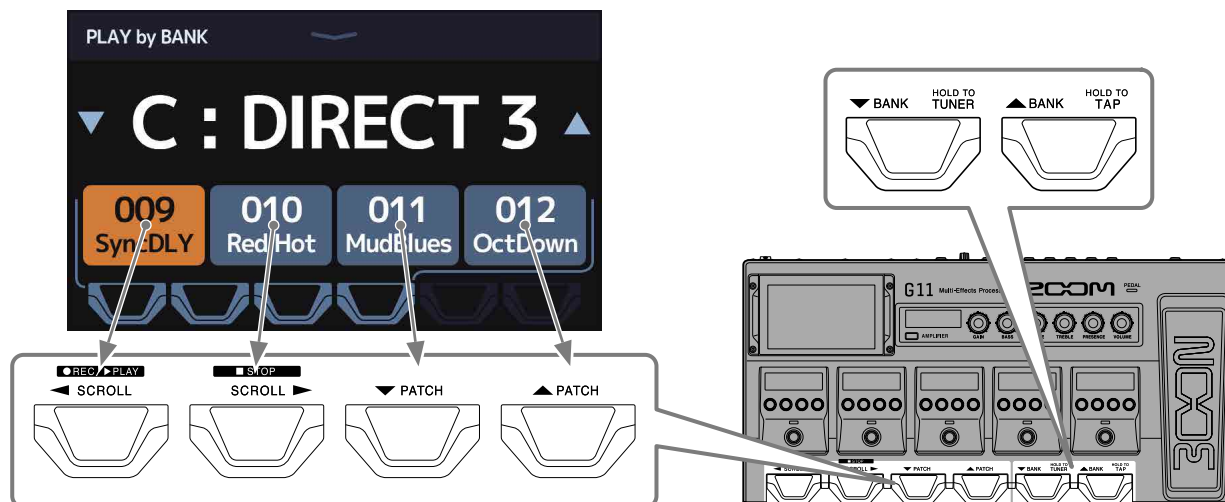
3. お好みのパッチメモリーをタッチする
選択したパッチメモリーがハイライトされます。



HINT

PLAY by BANK 画面表示中は、表示されているパッチメモリーをフットスイッチを押して直接選択することができます。

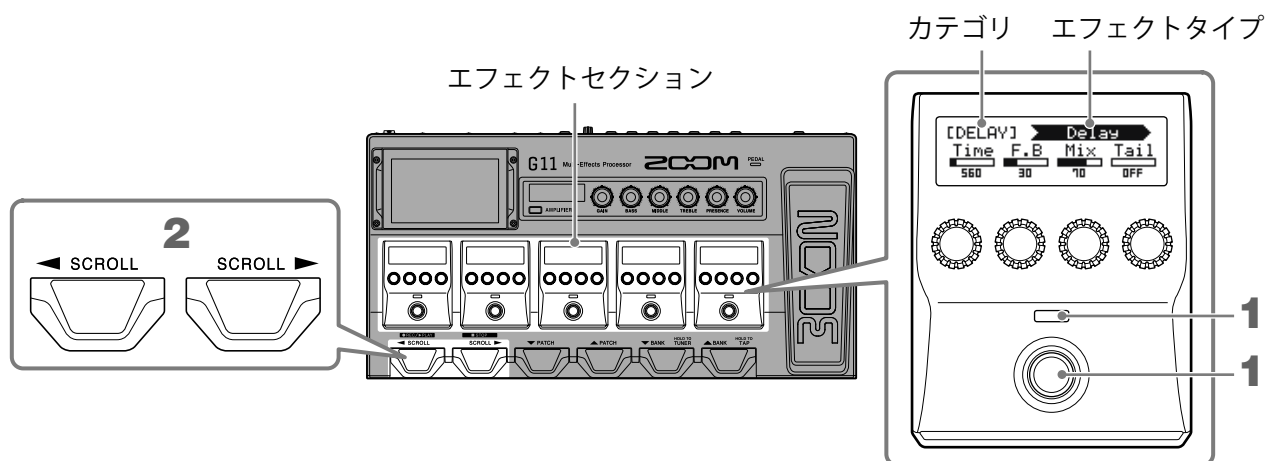
 または  を押すと、前/次のバンクを選択できます。



エフェクトを調節する

エフェクトを ON/OFF する

パッチメモリーで使用している各エフェクトの ON/OFF は、エフェクトセクションで行います。



1. を押す


エフェクトを ON/OFF します。


ON 時はエフェクトインジケータが点灯します。

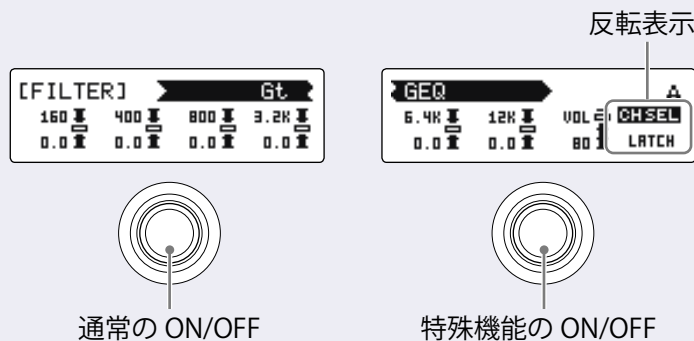
2. パッチメモリーでエフェクトを 6 つ以上使用している場合は、 または を押してエフェクトをスクロールする

エフェクトセクションでは 5 つまでのエフェクトを操作できます。ON/OFF したいエフェクトがエフェクトセクションに表示されていない場合は、右または左にスクロールして表示させてください。

NOTE

ラージエフェクト (→ [29 ページ](#)) には  に特殊機能が割り当てられているエフェクトタイプがあります。

 に関する機能を示すパラメーターは、エフェクトディスプレイ上に白黒反転表示されます。



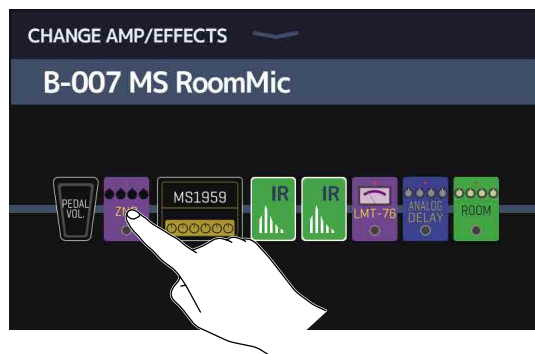
アンプ／エフェクトを変更する

パッチメモリーのアンプやエフェクトをお好みのアンプやエフェクトに変更します。

1. アンプ／エフェクトを変更したいパッチメモリーを選択する

2. ホーム画面で  をタッチする

3. 変更したいアンプまたはエフェクトをタッチする

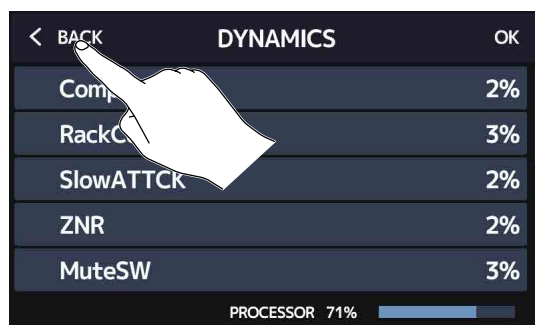


タッチしたアンプまたはエフェクトがリストに表示されます。

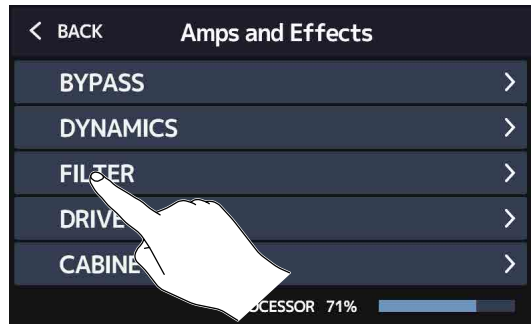


4. アンプまたは同じカテゴリ内のエフェクトを選択する場合：手順6に進む

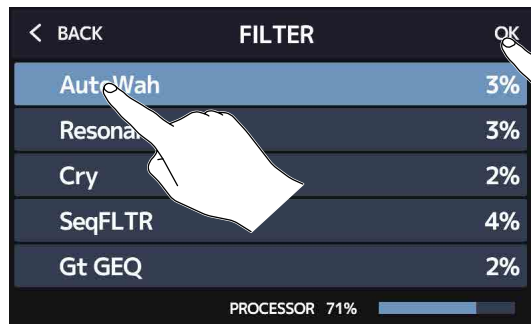
別のカテゴリのエフェクトを選択する場合：「BACK」をタッチする



5. 選択したいカテゴリをタッチする



6. 選択したいアンプまたはエフェクトをタッチ→「OK」をタッチする



選択したアンプまたはエフェクトに変更されます。



パッチメモリーのエフェクト数について

G11 では 10 個のエフェクトを自由に組み合わせることができますが、処理状況が 100% を超えないようアンプまたはエフェクトタイプを選んでください。

処理状況はカテゴリまたはエフェクトを選択する画面で確認できます。

< BACK	REVERB	OK
	HD Hall	12%
	Spring	4%
	FD Spring	11%
	Plate	9%
	EarlyRef	4%

PROCESSOR 79%

処理状況

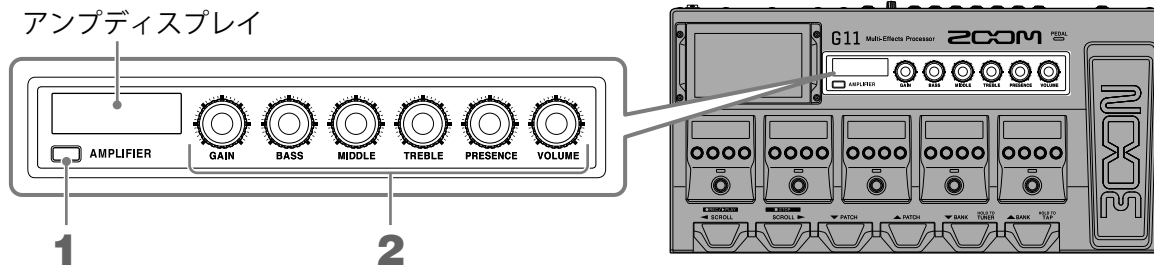
処理能力の限界を超えた場合には、以下が表示され、エフェクトがバイパス状態になります。



この状態を解除するには、いずれかのアンプまたはエフェクトを変更／削除してください。

アンプを調節する

各パッチメモリーで選択されているアンプの調節は、アンプセクションで行います。



1. AMPLIFIER を押す

アンプの ON/OFF を切り換えます (ON 時は点灯します)。

選択されているアンプ名は、アンプディスプレイに表示されます。

2. を回す

左から順にゲイン、ベース、ミドル、トレブル、プレゼンス、ボリュームが調節できます。

アンプ調節時は、アンプディスプレイにパラメーター値が表示されます。

NOTE

調節できる項目は選択しているアンプによって異なります。

HINT

アンプを変更するには (→ [24 ページ「アンプ/エフェクトを変更する」](#))

タッチスクリーンでアンプを調節する

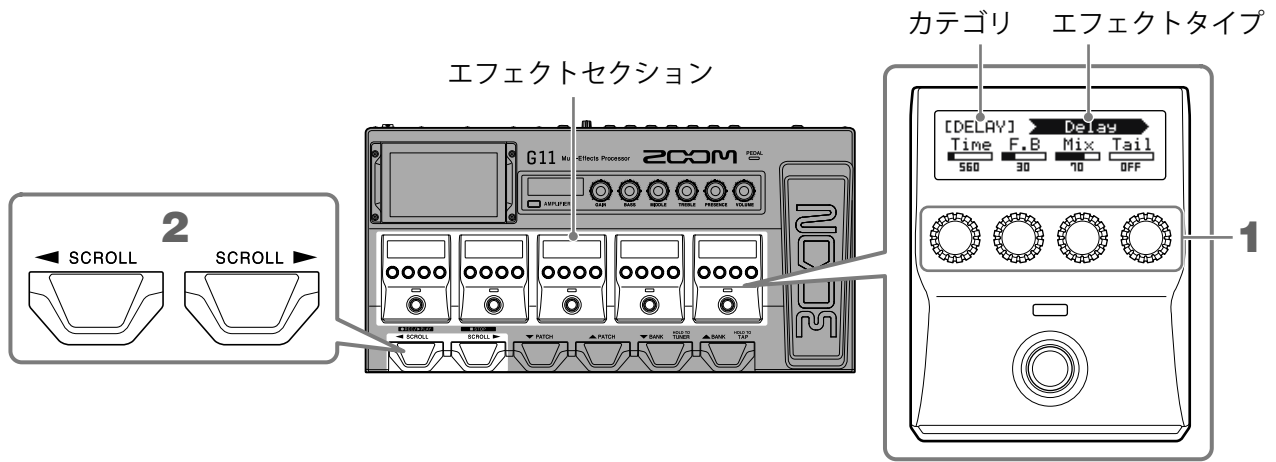
ホーム画面で  EDIT AMP をタッチする

The screenshot shows the 'EDIT AMP' screen for the 'I-036 MoonSnow' amp. The screen displays the amp name 'I-036 MoonSnow' and seven adjustable parameters: GAIN 61, BASS 74, MIDDLE 50, TREBLE 36, PRESENCE 34, VOLUME 69, and BRIGHT ON. A 'SPEED 0' parameter is also visible. A callout box points to the 'BRIGHT ON' parameter, stating '切換スイッチはタッチして設定を切り換えます。' (Toggle switch is touched to change settings). Another callout box points to the parameter values, stating 'つまみは上下にドラッグして調節します。' (Knobs are adjusted by dragging up and down).

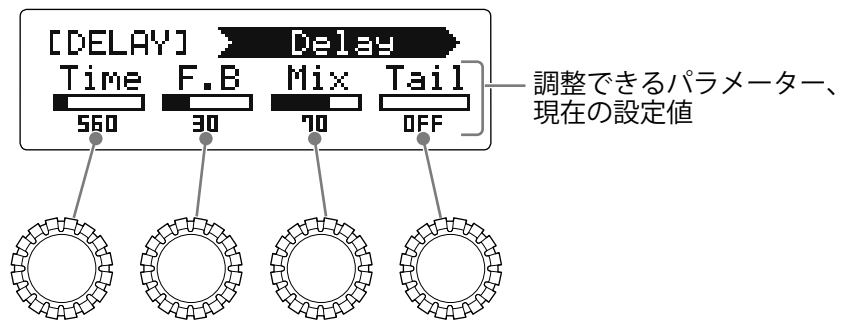
- ・アンプタイプによって調節・設定できるパラメーターは異なります (タッチスクリーンからのみ調節・設定できるパラメーターもあります)。
- ・アンプセクションで調節した設定値もタッチスクリーンに反映されます。

エフェクトを調節する

パッチメモリーで使用している各エフェクトの調節は、エフェクトセクションで行います。



1. を回してエフェクトのパラメーターを調節する
直上に表示されているパラメーターを調節します。



2. パッチメモリーでエフェクトを6つ以上使用している場合は、 または を押してエフェクトをスクロールする


エフェクトセクションでは5つまでのエフェクトを調節できます。調節したいエフェクトがエフェクトセクションに表示されていない場合は、右または左にスクロールして表示させてください。

PLAY by EFFECT BOARD 画面



エフェクトセクションで操作できるエフェクトを示しています。

NOTE

- オートセーブ機能を ON にすると、パッチメモリーの変更内容は自動的に保存されます(初期設定は ON です)。(→ [95 ページ「オートセーブを設定する」](#))
- オートセーブ機能を OFF にした場合はパッチメモリーは自動で保存されません。パッチメモリーの内容を変更すると、タッチスクリーン右上に  アイコンが表示され保存されている設定から変わったことを示します。アイコンをタッチするとパッチメモリーを保存する画面が表示されますので、必要に応じて保存してください。(→ [40 ページ「パッチメモリーを保存する」](#))

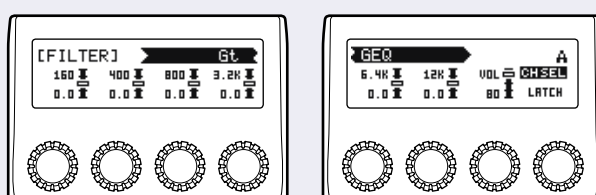


HINT

- Time や Rate などのエフェクトパラメーターで音符マークを選択すると、テンポに同期させることができます。(→ [39 ページ「マスターテンポを調節する」](#))
- 各エフェクトの説明は Guitar Lab で確認することができます。
- エフェクトを変更するには (→ [24 ページ「アンプ/エフェクトを変更する」](#))
- エフェクトを追加するには (→ [31 ページ「エフェクトを追加する」](#))
- エフェクトを削除するには (→ [33 ページ「エフェクトを削除する」](#))

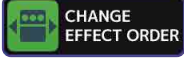
ラージエフェクトについて

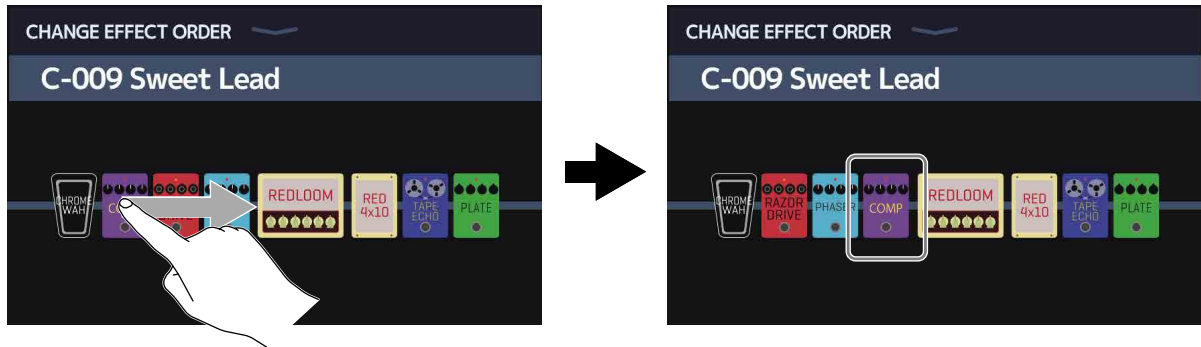
エフェクトによっては、調節パラメーターの数によってエフェクトセクション2つ分使用するものがありますが、それをラージエフェクトと呼びます。その場合はパラメーターがエフェクトセクション2つにまたがって表示されます。



エフェクトの並び順を変更する

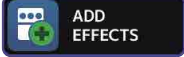
パッチメモリーのエフェクトをお好みの並び順に変更します。

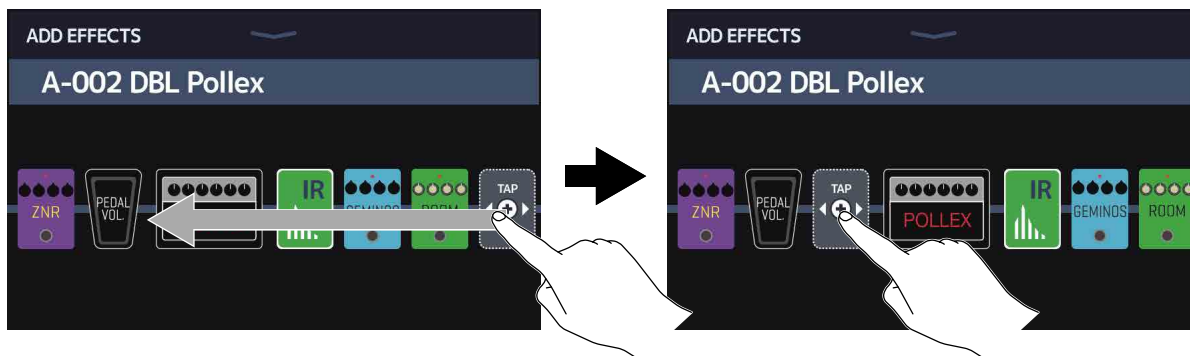
1. 並び順を変更したいパッチメモリーを選択する
2. ホーム画面で  をタッチする
3. エフェクトのアイコンをドラッグしてお好みの位置に移動させる



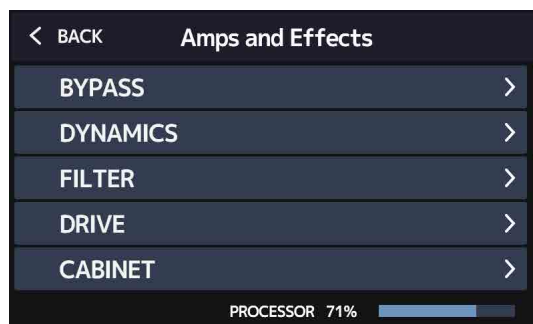
エフェクトを追加する

パッチメモリーにお好みのエフェクトを追加します。

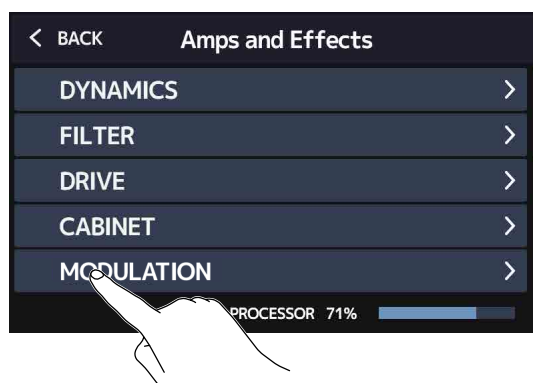
1. エフェクトを追加したいパッチメモリーを選択する
2. ホーム画面で  をタッチする
3. 「Tap」アイコンをドラッグしてエフェクトを追加したい位置に移動させ、「Tap」アイコンをタッチする



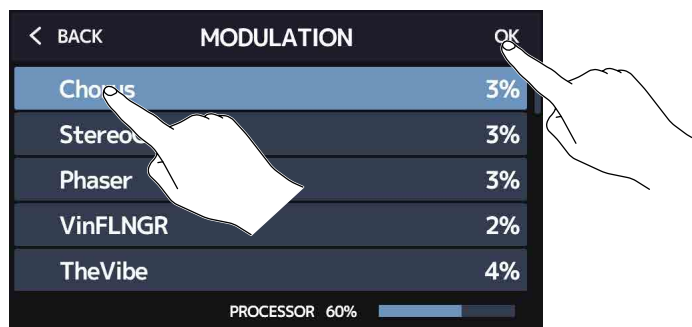
カテゴリを選択する画面が表示されます。



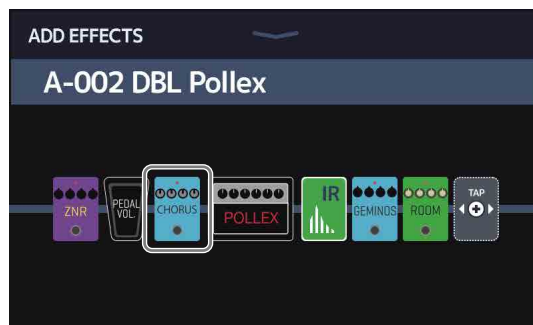
4. 追加したいエフェクトのカテゴリをタッチする



5. 選択したいアンプまたはエフェクトをタッチ→「OK」をタッチする



選択したエフェクトが追加されます。





「Tap」アイコンが新たに表示されますので、必要に応じて手順3～5を繰り返してエフェクトを追加します。

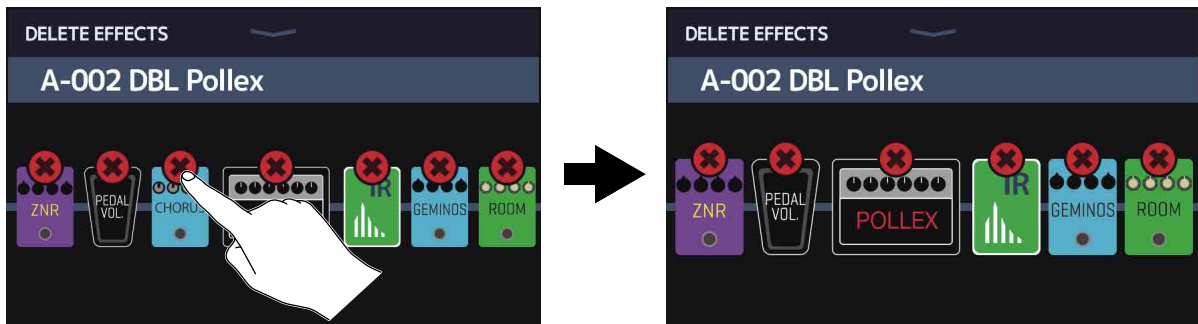
NOTE

G11では10個のエフェクトを自由に組み合わせることができます。(→26ページ「パッチメモリーのエフェクト数について」)

エフェクトを削除する

パッチメモリーから不要なエフェクトを削除します。

1. エフェクトを削除したいパッチメモリーを選択する
2. ホーム画面で  をタッチする
3. 削除したいエフェクトの  アイコンをタッチする
選択したエフェクトが削除されます。



全ての設定を一つの画面で行う

パッチメモリの編集操作を一つの画面で行うことができます。

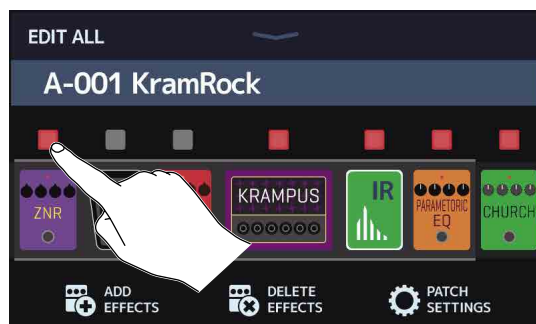
1. 編集操作を行いたいパッチメモリーを選択する

2. ホーム画面で  をタッチする

3. パッチメモリーの編集を行う

■アンプ／エフェクトを ON/OFF する

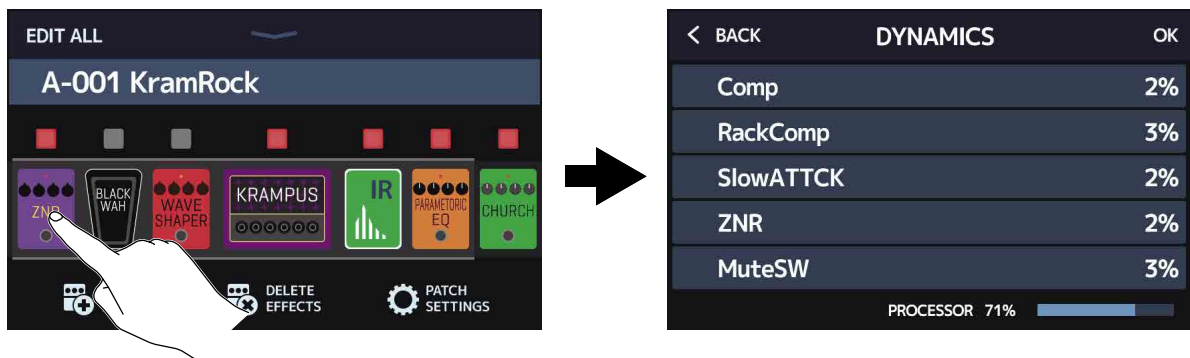
ON/OFF するアンプまたはエフェクト上のインジケータをタッチします。



赤点灯が ON、消灯が OFF です。

■アンプ／エフェクトを変更する

変更したいアンプまたはエフェクトをタッチします。



タッチしたアンプまたはエフェクトがリストに表示されますので、[24 ページ「アンプ／エフェクトを変更する」](#)の操作にしたがってアンプ／エフェクトを変更します。

■エフェクトの並び順を変更する

エフェクトタイプのアイコンをドラッグしてお好みの位置に移動させます。



■エフェクトを追加する

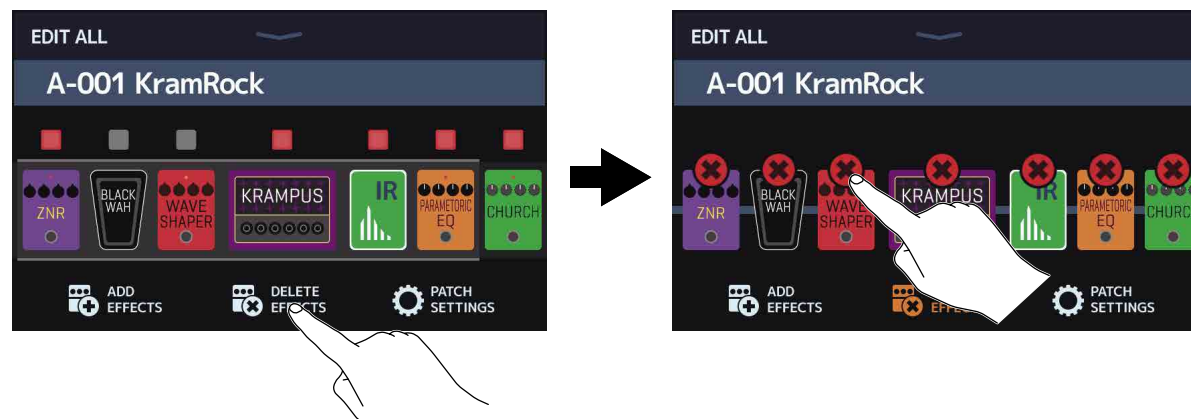
「ADD EFFECTS」をタッチします。




「TAP」アイコンが表示されますので、[31 ページ「エフェクトを追加する」](#)の操作にしたがってエフェクトを追加します。

■エフェクトを削除する

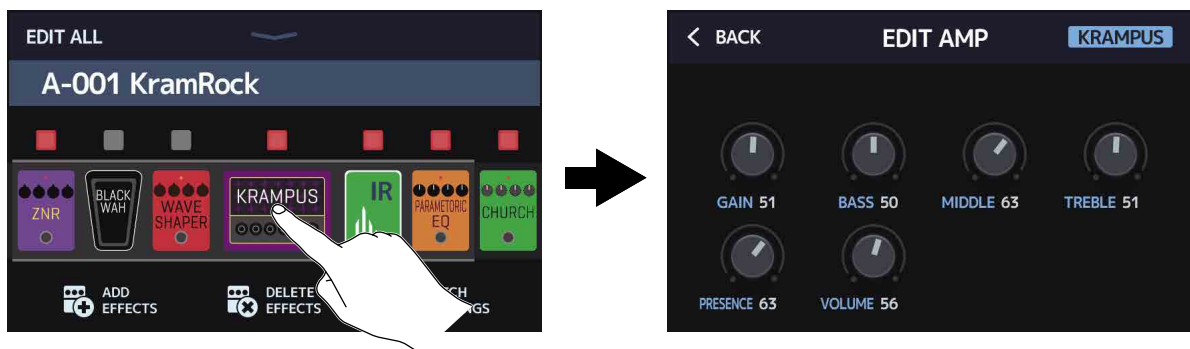
「DELETE EFFECTS」をタッチします。



削除したいエフェクトの  アイコンをタッチすると、パッチメモリーからエフェクトが削除されます。

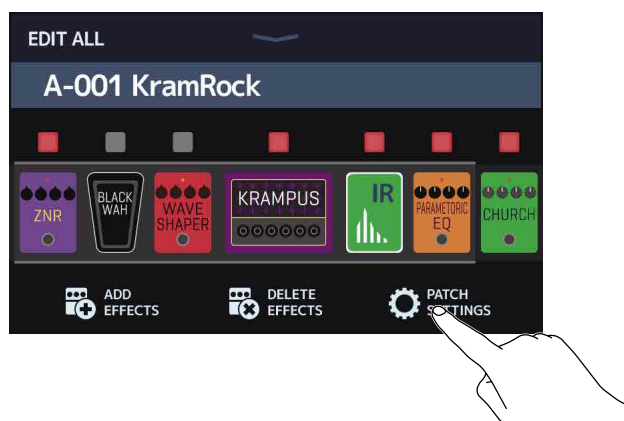
■ アンプを調節する

アンプをしばらくタッチしたままにすると、アンプ設定画面が表示されます。[27 ページ「アンプを調節する」](#)の操作にしたがってアンプを調節します。



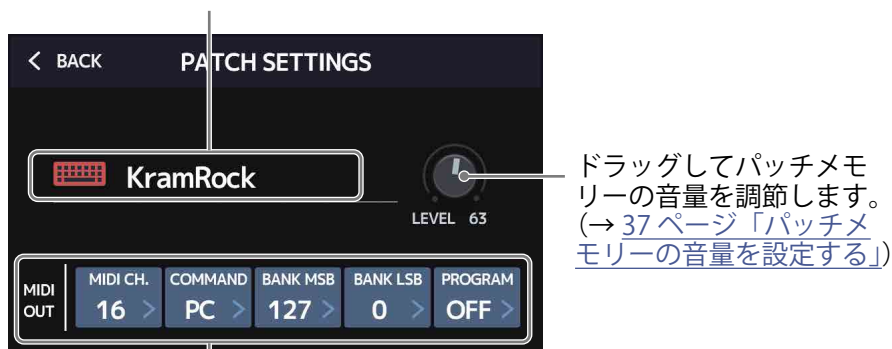
■ パッチメモリーの設定を行う

「PATCH SETTINGS」をタッチします。



以下の設定を行うことができます。

タッチしてパッチメモリーの名前を変更します。
(→ [38 ページ「パッチメモリーの名前を変更する」](#))

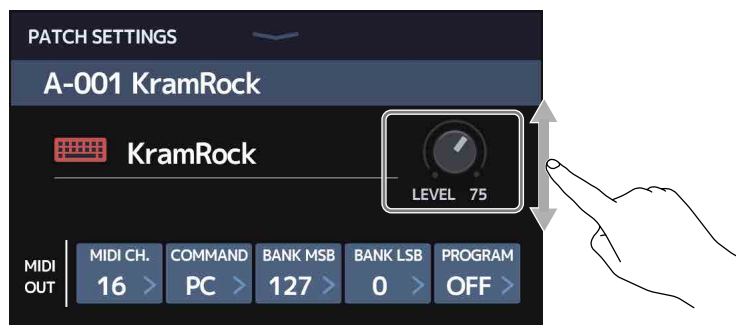


タッチしてパッチメモリーの MIDI 出力設定をします。
(→ [81 ページ「パッチメモリーの MIDI 送信設定を行う」](#))

パッチメモリーの音量を設定する

パッチメモリーごとに音量を設定することができます。

1. 音量を設定したいパッチメモリーを選択する
2. ホーム画面で  をタッチする
3. 「LEVEL」つまみをドラッグして音量を設定する



HINT

音量は 0 ～ 120 の間で設定できます。

パッチメモリーの名前を変更する

パッチメモリーの名前を変更することができます。

1. 名前を変更したいパッチメモリーを選択する
2. ホーム画面で  をタッチする
3.  をタッチしてキーボードを表示させる



4. キーボードをタッチしてパッチメモリー名を入力する


文字入力エリア
入力位置を示すカーソルが表示されます。



NOTE

使用可能な文字／記号は次の通りです。

! # \$ % & ' () + , - . : ; = @ [] ^ _ ` { } ~ (space) A-Z, a-z, 0-9

5.  をタッチしてパッチメモリー名を確定する

元の画面に戻ります。

マスターテンポを調節する

リズム、ルーパー、ディレイエフェクトや一部のモジュレーションエフェクトで使用するテンポを調節することができます。

1. ホーム画面で  SET TEMPO をタッチする

2. テンポを調節する



現在のテンポを表示します。
タッチするとキーボードが表示されますので、
直接テンポを入力することができます。

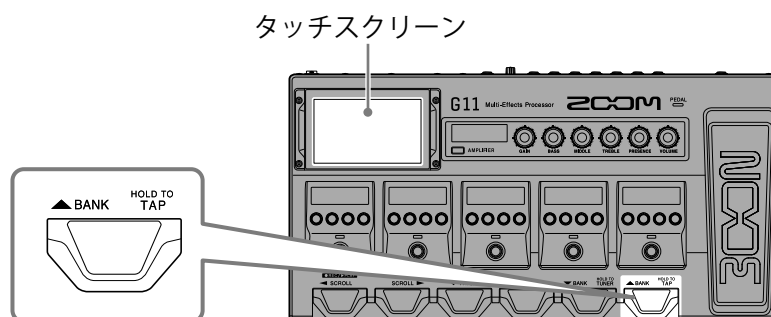


タッチした間隔でテンポを設定します（タップテンポ）。

HINT

• テンポは ♩ =40 ~ 250 の間で設定できます。

•  を長押ししてタッチスクリーンにテンポが表示されている間は、 を押した間隔でテンポを設定することもできます。



パッチメモリーを管理する

パッチメモリーを保存する

オートセーブ機能が OFF のときは（初期設定は ON）、エフェクト、アンプ調節や音量設定などの変更は自動で保存されません。その場合は手動で保存します。

パッチメモリーを他の場所に保存することもできます。

HINT

オートセーブ機能について詳しくは、[95 ページ「オートセーブを設定する」](#)を参照してください。

1. 保存したいパッチメモリーを選択する
2. ホーム画面で  をタッチする
3. パッチメモリーを保存する

■上書きする場合

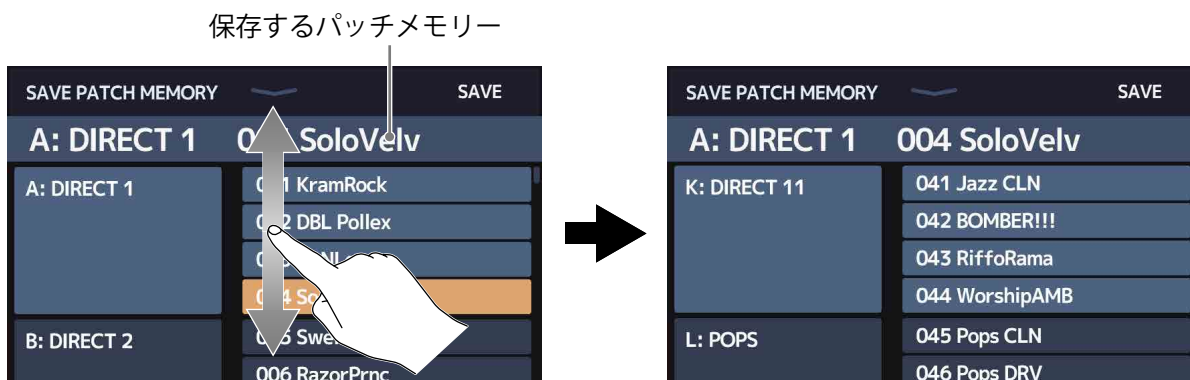
「SAVE」をタッチします。



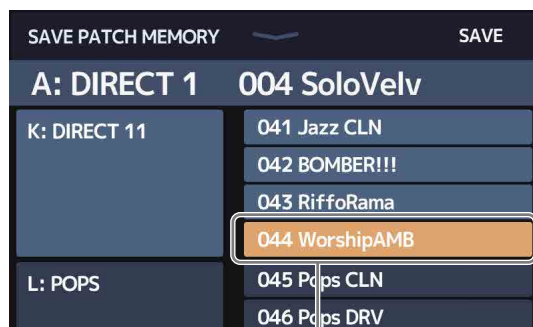
保存先はハイライト表示されます。

■違う場所に保存する場合

1. 上または下にスワイプして保存先を表示する
保存先はバンクごとに表示されます。

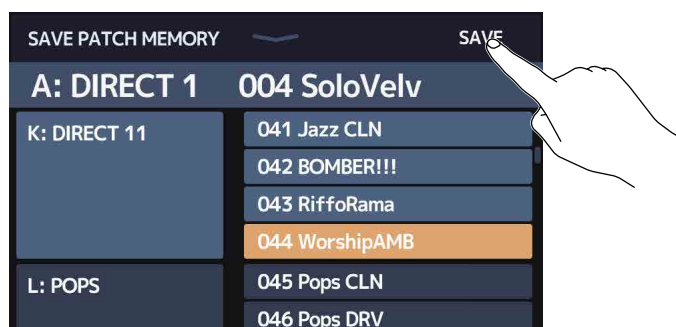


2. 保存先をタッチする

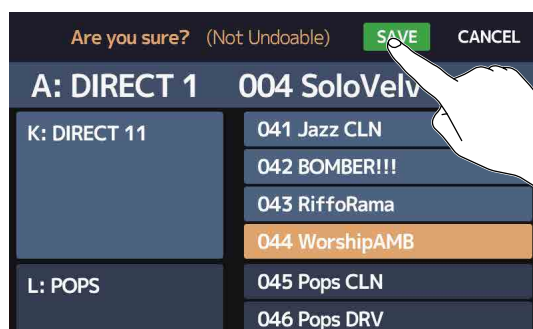


保存先はハイライト表示されます。


3. 「SAVE」をタッチする



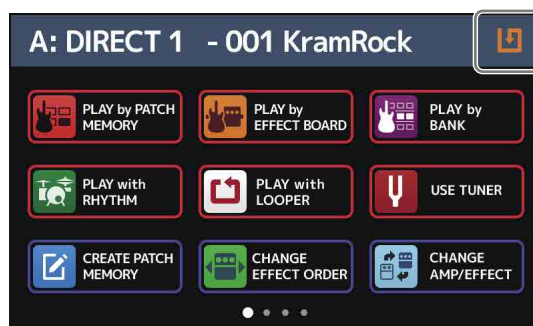
4. もう一度「SAVE」をタッチする 選択した場所に保存されます。



HINT



オートセーブ機能が OFF のときにパッチメモリーの内容を変更すると、タッチスクリーン右上に  アイコンが表示され保存されている設定から変わったことを示します。

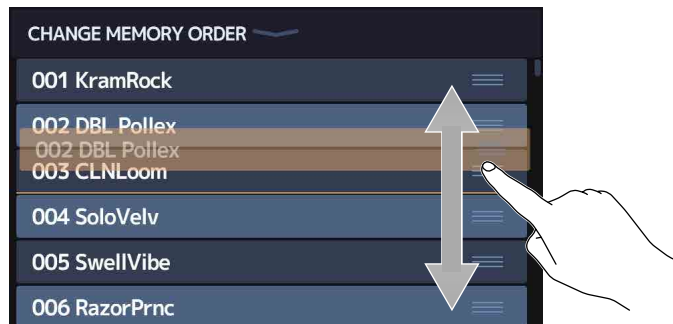
アイコンをタッチするとパッチメモリーを保存する画面を表示することができます。



パッチメモリの並び順を変更する

パッチメモリの並び順を変更することができます。

1. ホーム画面で  をタッチする
2. パッチメモリの  アイコンを上下にドラッグして並び順を変更する

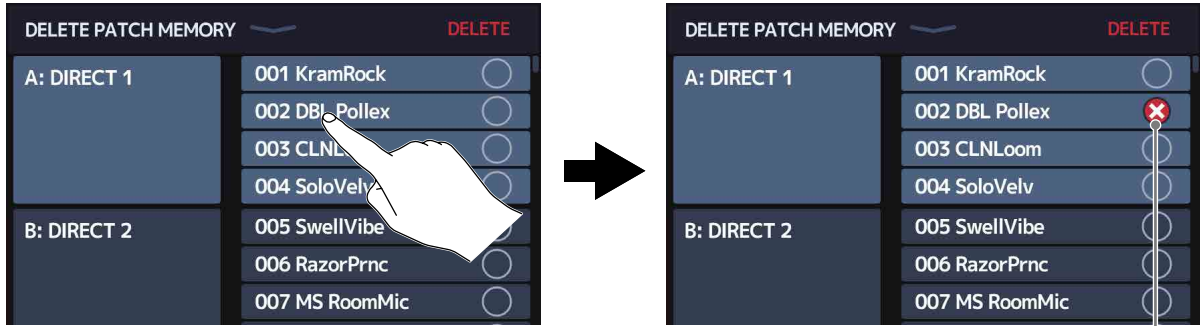


パッチメモリーを削除する

不要なパッチメモリーを削除します。

1. ホーム画面で  をタッチする

2. 削除したいパッチメモリーをタッチする

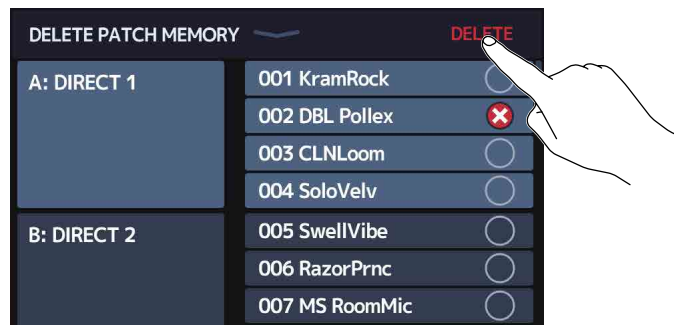


タッチしたパッチメモリーには削除アイコンが表示されます。

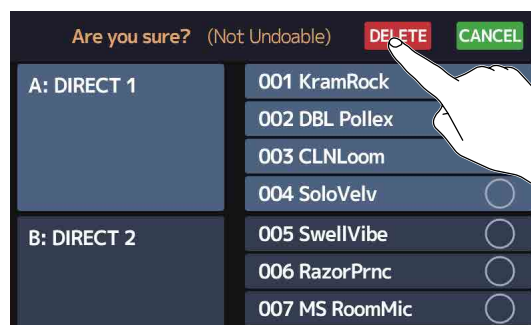
HINT

- パッチメモリーはバンクごとに表示されます。
- 削除したいパッチメモリーは複数選択することができます。
- もう一度タッチすると削除アイコンが消え削除をキャンセルできます。

3. 「DELETE」をタッチする



4. 「DELETE」をタッチする

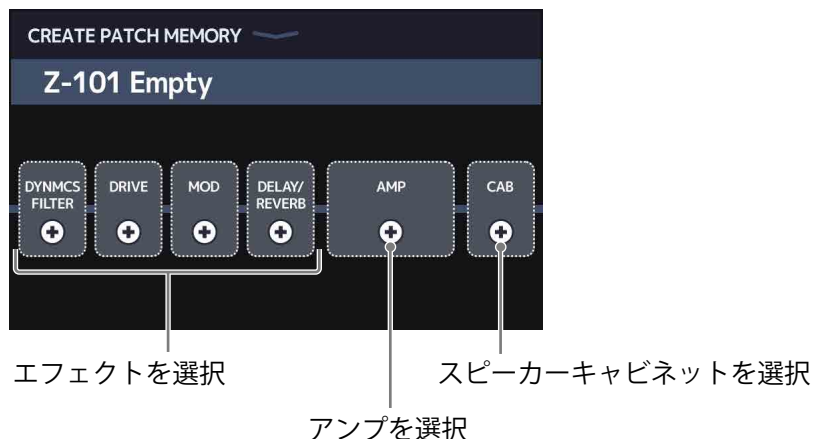


削除したパッチメモリーは空きとなり、「Empty」と表示されます。

パッチメモリーを作成する

パッチメモリーを新たに作成します。

1. ホーム画面で  をタッチする
パッチメモリーを作成するための画面が表示されます。



パッチメモリー作成画面では、あらかじめエフェクト選択用に4種類のカテゴリ、アンプ、スピーカーキャビネットが割り当てられています。

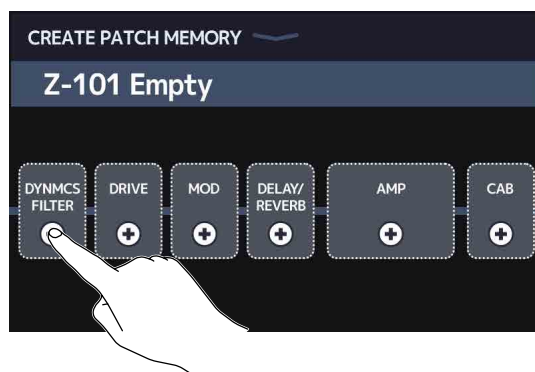
それぞれお好みのエフェクト、アンプ、スピーカーキャビネットを選択してパッチメモリーを作成します。

- 「DYNMCS/FILTER」：コンプレッサーなどのダイナミクス系、またはイコライザーなどのフィルター系のエフェクト
- 「DRIVE」：ディストーションやオーバードライブなどの歪み系のエフェクト
- 「MOD」：コーラスやフランジャーなどのゆれ系のエフェクト
- 「DELAY/REVERB」：ディレイやリバーブなどの空間系のエフェクト

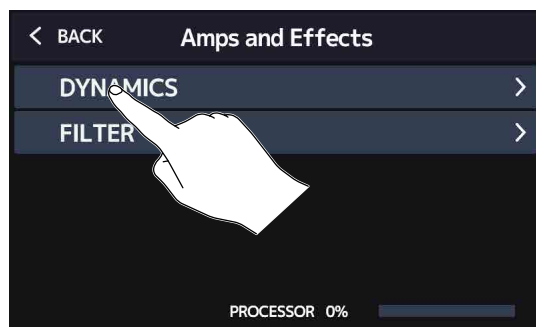
NOTE

- パッチメモリーは240個保存することができます。空きがない場合はパッチメモリー作成画面が表示されません。不要なパッチメモリーを削除してから操作を行ってください。
- パッチメモリー作成画面に表示されないカテゴリのエフェクトを選択する場合は、パッチメモリーを作成した後、エフェクト追加の操作を行ってください。(→ [31ページ「エフェクトを追加する」](#))

2. エフェクト、アンプ、スピーカーキャビネットを選択したいアイコンをタッチする

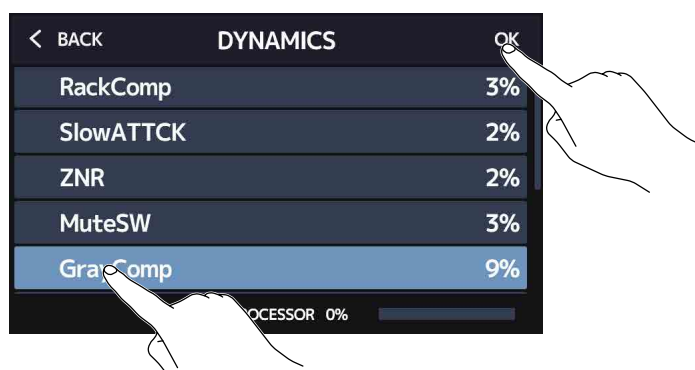


3. カテゴリを選択する

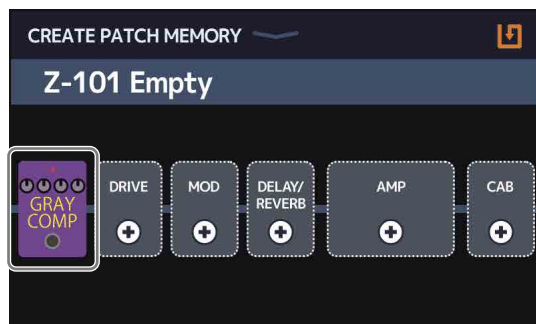


「DYNAMICS/FILTER」、「DELAY/REVERB」以外を選択しているときは、カテゴリを選択する画面は表示されません。手順4に進んでください。

4. 選択したいアンプまたはエフェクトをタッチ→「OK」をタッチする




選択したエフェクトまたはアンプが反映されます。



5. 手順2～4を繰り返してアンプ、エフェクトを選択する

オートセーブ機能（→ [95 ページ](#)）が ON のときは作成したパッチメモリーは自動で保存されます。

オートセーブ機能が OFF のときは  をタッチするとパッチメモリーを保存する画面が表示されますので、→ [40 ページ](#) 「パッチメモリーを保存する」で保存してください。

HINT


パッチメモリー名は [38 ページ](#) 「パッチメモリーの名前を変更する」で設定できます。

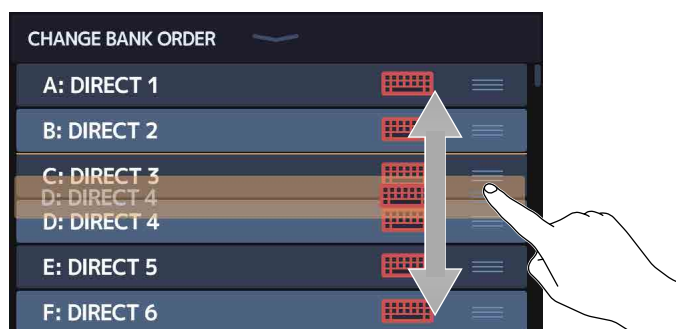
バンクを管理する

バンクの並び順を変更する

バンクの並び順を変更することができます。

1. ホーム画面で  をタッチする

2. バンクの  アイコンを上下にドラッグして並び順を変更する

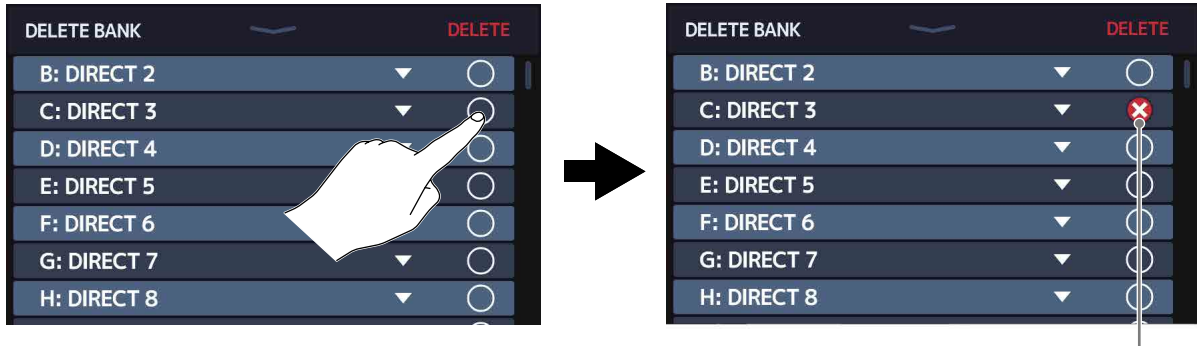


バンクを削除する

不要なバンクを削除します。

1. ホーム画面で  をタッチする

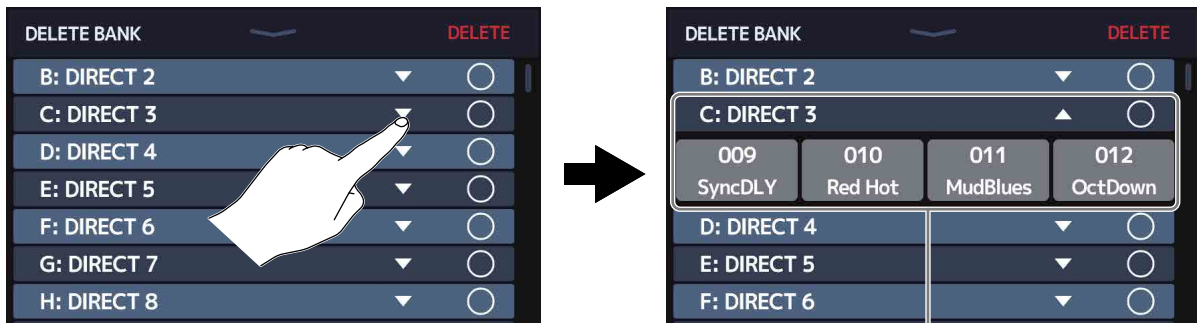
2. 削除したいバンクの「○」をタッチする



タッチしたバンクには削除アイコンが表示されます。

HINT

- 削除したいバンクは複数選択することができます。
- 削除アイコンをタッチすると、選択を解除することができます。
- ▼をタッチすると、バンクのパッチメモリーを確認することができます。



バンクのパッチメモリー

3. 「DELETE」をタッチする



4. 「DELETE」をタッチする



バンクが削除され、以降のバンクの番号が繰り上がります。

NOTE

バンクを削除するとバンクのパッチメモリーも削除されます。ご確認のうえ削除操作を行ってください。


バンクを作成する

バンクを新たに作成します。

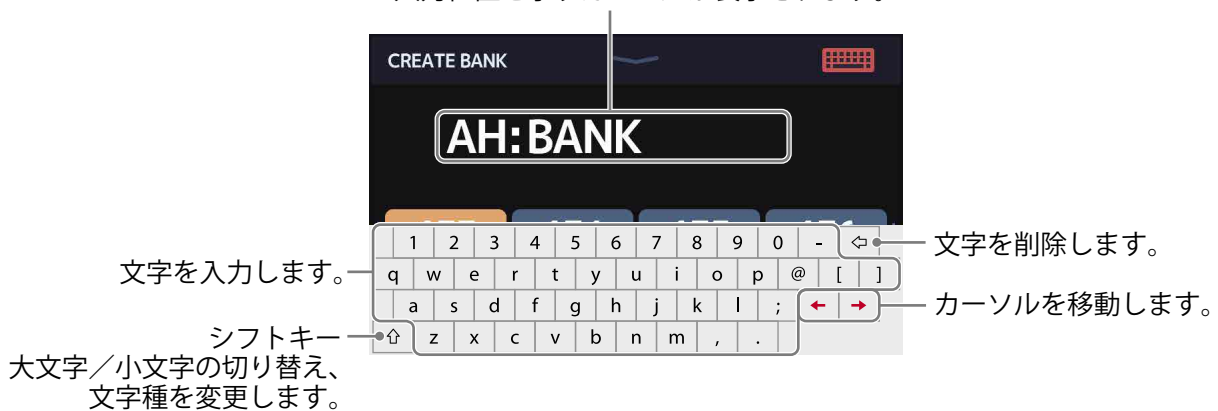
1. ホーム画面で  をタッチする

NOTE

タッチスクリーンに「All banks are full. Please delete a bank and try again.」と表示された場合は、バンクに空きがありません。不要なバンクを削除してください。(→ [47 ページ「バンクを削除する」](#))


2.  をタッチしてキーボードを表示させ、バンク名を入力する

文字入力エリア
入力位置を示すカーソルが表示されます。

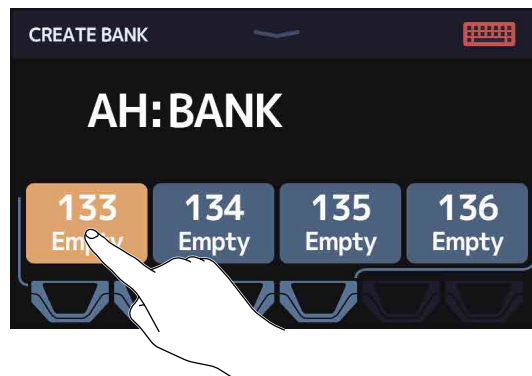


NOTE

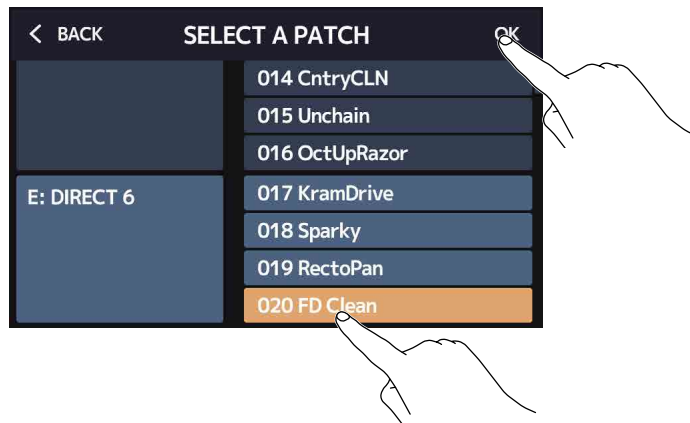
使用可能な文字/記号は次の通りです。
! # \$ % & ' () + , - . ; = @ [] ^ _ ` { } ~ (space) A-Z, a-z, 0-9

3.  をタッチしてバンク名を確定する

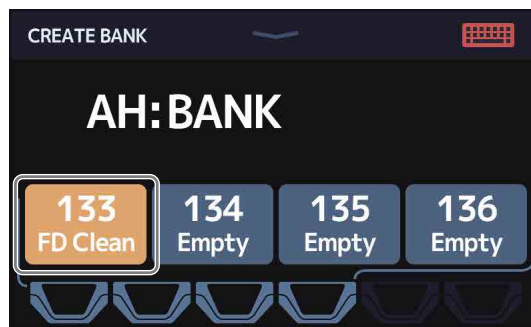
4. パッチメモリーを割り当てたい場所をタッチする



5. 割り当てたいパッチメモリーをタッチ→「OK」をタッチする



選択したパッチメモリーが反映されます。



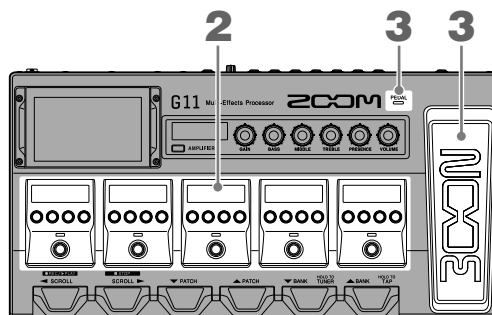
6. 手順 4、5 を繰り返してパッチメモリーを選択する

エクスプレッションペダルを使用する


PEDAL カテゴリのエフェクト（ペダルエフェクト）がパッチメモリーに選択されている場合、エクスプレッションペダルを操作してエフェクトのかかり方を変化させることができます。

内蔵のペダルを使用する

内蔵のエクスプレッションペダルを操作してエフェクトのかかり方を変化させます。



1. ペダルエフェクトを調節したいパッチメモリーを選択する

ホーム画面で  をタッチすると、パッチメモリーで選択されているエフェクトを確認できます。



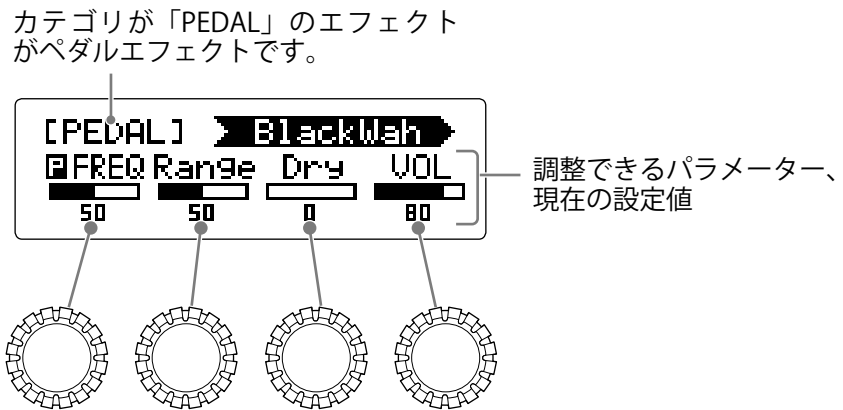
ペダルエフェクト

- ペダルエフェクトを変更するには：→ [24 ページ「アンプ／エフェクトを変更する」](#)
- ペダルエフェクトを追加するには：→ [31 ページ「エフェクトを追加する」](#)

NOTE

外部ペダルを接続すると、PEDAL カテゴリから 2 種類のエフェクトを使用できます。（→ [55 ページ「外部ペダルを使用する」](#)）

2. エフェクトセクションに表示されているペダルエフェクトを調節する
エフェクトセクションのパラメーターノブを使って調節します。(→ [28 ページ「エフェクトを調節する」](#))



3. エクスプレッションペダルを操作する

エフェクトのかかり方が変化します。

ペダル先端部を踏み込むと、ペダルエフェクトの ON/OFF が切り換わります (ON 時はペダルインジケーターが点灯します)。

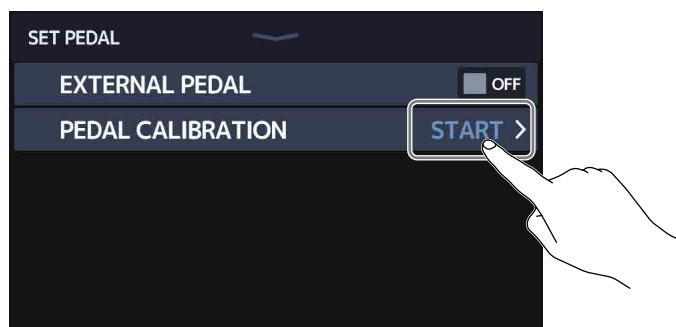
NOTE

エクスプレッションペダルの先端を踏み込んでペダルエフェクトの ON/OFF を切り替えた場合、ON/OFF の設定は保存されません (エフェクトセクションのフットスイッチで ON/OFF を切り替えた場合は、ON/OFF の設定は保存されます)。

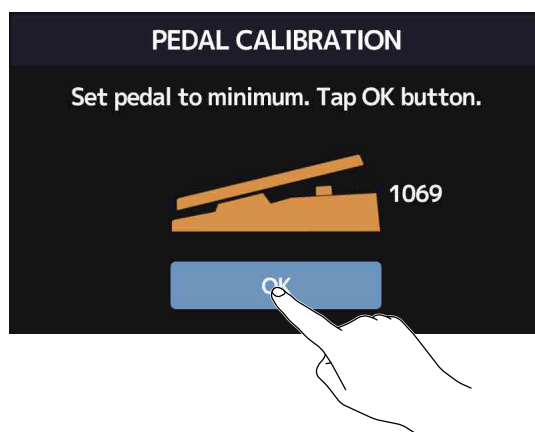
ペダルを調節する

内蔵のエクスペッションペダルの感度を調節するため、ペダルのキャリブレーションを行います。

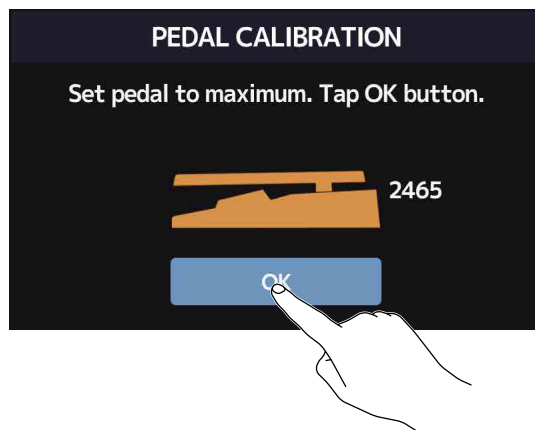
1. ホーム画面で  をタッチする
2. 「PEDAL CALIBRATION」の「START」をタッチする
ペダルのキャリブレーションを開始します。



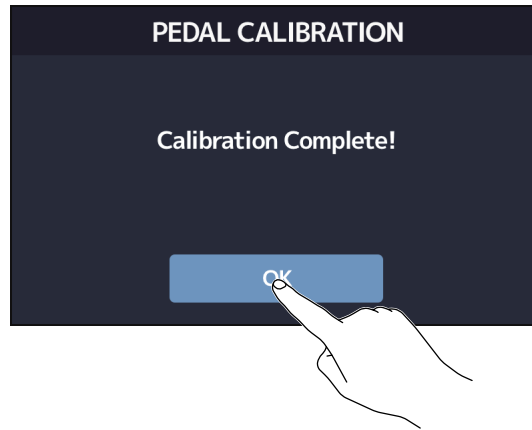
3. ペダルを踏んでいない状態（ペダルが一番上に上がっている状態）にして「OK」をタッチする



4. ペダルを最奥まで踏み込んだ状態にして「OK」をタッチする

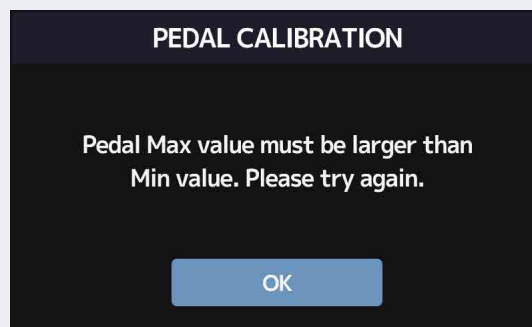


5. 「OK」をタッチしてペダルのキャリブレーションを完了する



NOTE

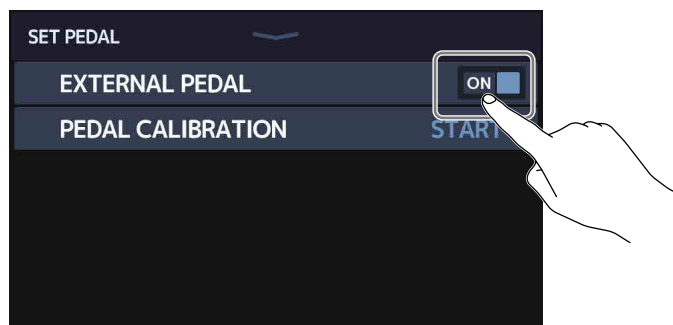
- 以下の場合には、ペダルの感度を調節します。
 - ペダルを踏んでもあまり効果がない。
 - 軽く踏んだだけなのに音量や音色が大きく変化してしまう。
- タッチスクリーンに以下の画面が表示された場合は、「OK」をタッチしてキャリブレーションを最初からやり直してください。



外部ペダルを使用する

外部ペダルを接続すると、PEDAL カテゴリから2種類のエフェクトを使用できます。ペダルエフェクトが外部ペダルに割り当てられるように設定します。

1. ホーム画面で  をタッチする
2. 「EXTERNAL PEDAL」のスイッチをタッチしてONにする
タッチする度にON/OFFが切り換わります。



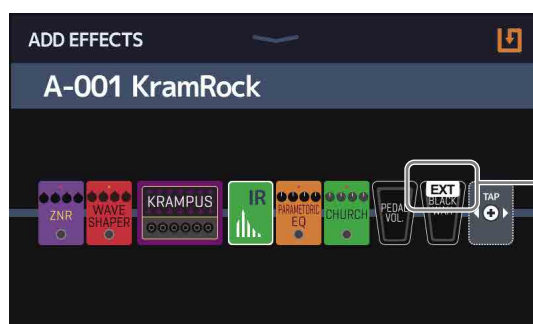
設定	説明
OFF	外部ペダルを使用しません。
ON	外部ペダルを使用します。

3. 外部ペダルを設定したいパッチメモリーを選択する

4. ホーム画面で  をタッチする



「TAP」アイコンが表示されますので、[31 ページ「エフェクトを追加する」](#)の操作にしたがってペダルエフェクトを追加します。

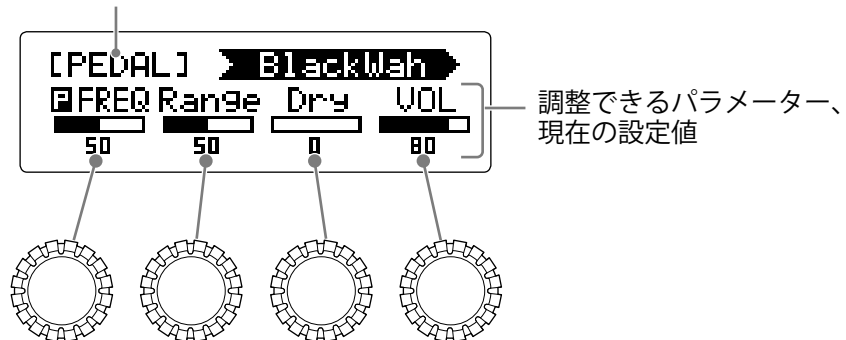


外部ペダル用ペダルエフェクトには「EXT」マークが表示されます。

5. 追加したペダルエフェクトを調節する

エフェクトセクションのパラメーターノブを使って調節します。(→ [28 ページ「エフェクトを調節する」](#))

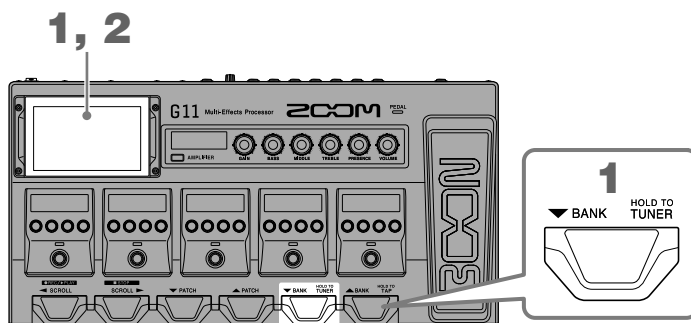
カテゴリが「PEDAL」のエフェクト
がペダルエフェクトです。





チューナーを使用する

チューナーを有効にする

チューナーを有効にして G11 でギターをチューニングします。



1.  を長押しする、またはホーム画面で  をタッチする
チューナーが有効になりタッチスクリーンにチューナー画面が表示されます。

2. チューニングしたい弦を開放で弾き、ピッチを調整する


タッチすると音をミュートします。



チューナータイプと基準ピッチを表示します。
タッチすると、チューナーの設定を変更することができます。
(→ [58 ページ「チューナーの設定を変更する」](#))

- 最寄りの音名とピッチのズレが表示されます。
- ピッチが合うと、左右のインジケータが緑に点灯します。
- 右または左にスワイプすると、違うタイプのチューナーを表示することができます。

■ チューナーを終了するには

チューナー使用中に  を押すと、チューナーを終了してタッチスクリーンにホーム画面が表示されます。

チューナーの設定を変更する

チューナーのや基準ピッチやタイプを変更したり、フラットチューニングの設定をすることができます。

1. ホーム画面で  をタッチする

2. チューナーの設定を変更する

■チューナーの基準ピッチを変更する

「CALIBRATION」つまみを上下にドラッグして基準ピッチを変更します。



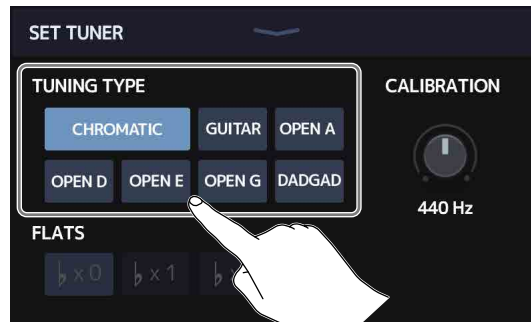
基準ピッチ

HINT

設定範囲は中央 A=435 ~ 445 Hz です。

■チューナータイプを選択する

お好みのチューナータイプをタッチします。



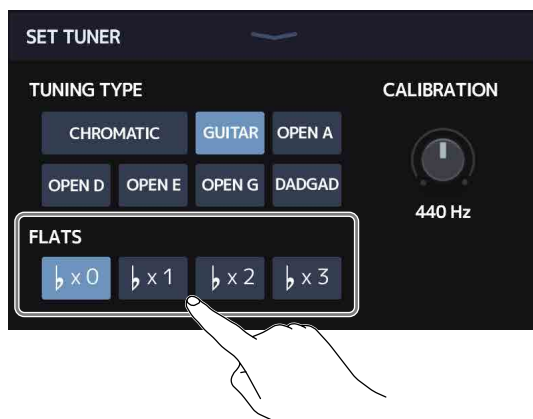
設定	説明
CHROMATIC	最寄りの音名（半音単位）を基準にしてズレを表示します。
その他のチューナータイプ	選択したタイプに応じて最寄りの弦番号を表示し、本来合わせるべきピッチからどの程度ずれているかを表示します。選択できる種類は次の表の通りです。

表示	解説	弦番号／音名						
		7	6	5	4	3	2	1
GUITAR	7弦ギターにも対応するギターの標準チューニング	B	E	A	D	G	B	E
OPEN A	開放弦を鳴らすとAのコードになるオープンAチューニング	-	E	A	E	A	C#	E
OPEN D	開放弦を鳴らすとDのコードになるオープンDチューニング	-	D	A	D	F#	A	D
OPEN E	開放弦を鳴らすとEのコードになるオープンEチューニング	-	E	B	E	G#	B	E
OPEN G	開放弦を鳴らすとGのコードになるオープンGチューニング	-	D	G	D	G	B	D
DADGAD	タッピング奏法などでよく使われる変則チューニング	-	D	A	D	G	A	D

■フラットチューニングを使用する

すべての弦を通常のチューニングよりも半音 ($\flat \times 1$)、1 音 ($\flat \times 2$)、1 音半 ($\flat \times 3$) 下げた状態にチューニングできます。

好みのフラットチューニングをタッチします。



NOTE

チューナータイプが“CHROMATIC”のときは、フラットチューニングはできません。

リズムを使用する

内蔵されたリズムに合わせて演奏することができます。

リズムを有効にする

リズムを有効にして、リズムを再生したり、リズムの設定をします。

1. ホーム画面で  をタッチする

リズムが有効になりタッチスクリーンにリズム操作画面が表示されます。



タッチスクリーンやフットスイッチを使って、リズムの再生、停止、設定を行うことができます。

リズムを設定する

リズムの各種設定を行います。

リズムパターンを選択する

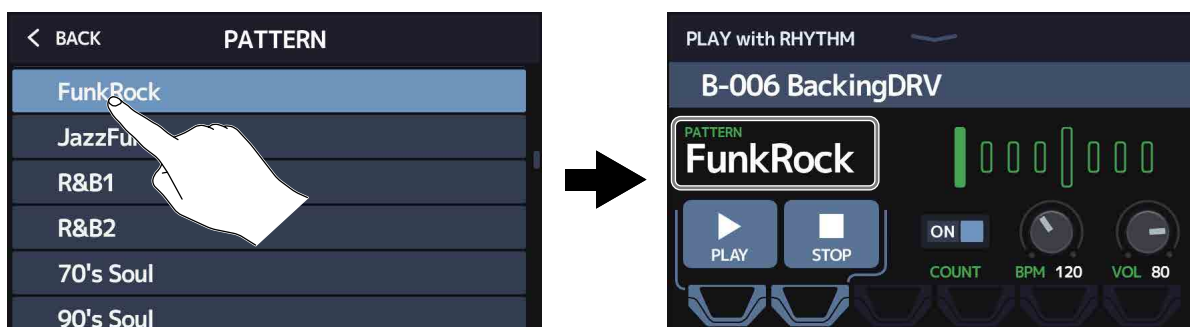
再生するリズムパターンを選択します。

1. リズム操作画面 (→ [60 ページ](#)) でリズムパターン名をタッチする

リズムパターン名



2. お好みのリズムパターンをタッチ→「BACK」をタッチする



選択したリズムパターンが反映されます。

HINT

リズムパターンの種類は [66 ページ「リズムパターン」](#) を参照してください。

プリカウントを設定する

ルーパーで録音を開始する前に、カウント音を再生するかしないかの設定をします。

1. リズム操作画面 (→ [60 ページ](#)) で「COUNT」をタッチする
タッチする度に ON/OFF が切り換わります。



設定	説明
OFF	プリカウントを再生しません。
ON	プリカウントを再生します。



テンポを調節する

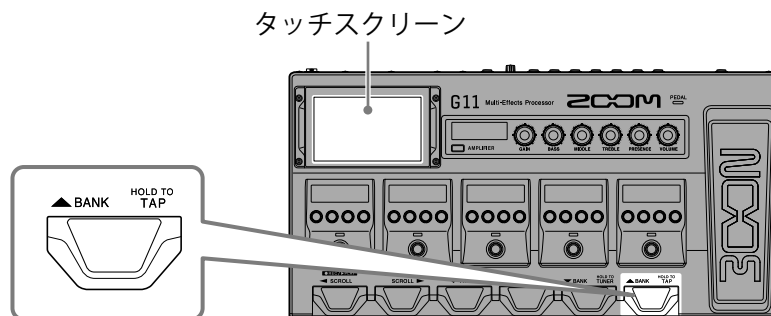
リズムのテンポを調節します。

1. リズム操作画面 (→ [60 ページ](#)) で「BPM」つまみを上下にドラッグする



HINT

- 40 ~ 250 の範囲で調節できます。
- ここで調節したテンポは、各エフェクトおよびルーパーと共有されます。
-  を長押ししてタッチスクリーンにテンポが表示されている間は、 を押した間隔でテンポを設定することもできます。



音量を調節する

リズムの音量を調節します。

1. リズム操作画面 (→ [60 ページ](#)) で「VOL」つまみを上下にドラッグする



HINT

0 ~ 100 の範囲で調節できます。

リズムを再生／停止する

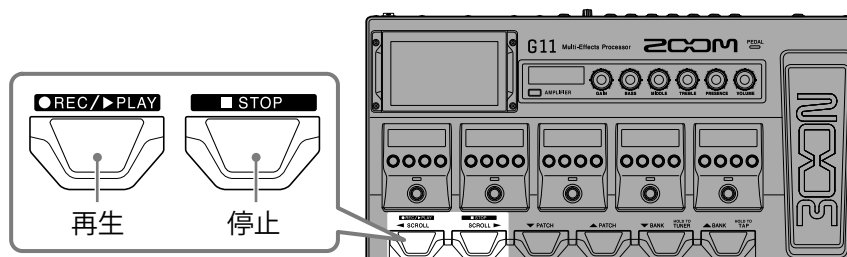
リズムを再生／停止します。

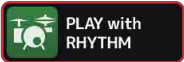
1. リズム操作画面 (→ [60 ページ](#)) で「PLAY」または「STOP」をタッチする



HINT

- リズム操作画面表示中は、フットスイッチでリズムを再生／停止することができます。



- リズムの再生中にホーム画面に戻ると、リズムを再生したままパッチメモリーを選択したり、ルーパーを使用するなど他の操作を行うことができます。他の操作をしているときにリズムを停止する場合は、ホーム画面で  をタッチしてから停止操作を行ってください。

リズムパターン

No.	PatternName	TimSig
1	GUIDE	4/4
2	8Beats1	4/4
3	8Beats2	4/4
4	8Beats3	4/4
5	16Beats1	4/4
6	16Beats2	4/4
7	16Beats3	4/4
8	Rock1	4/4
9	Rock2	4/4
10	Rock3	4/4
11	ROCKABLY	4/4
12	R'n'R	4/4
13	HardRock	4/4
14	HeavyMtl	4/4
15	MtlCore	4/4
16	Punk	4/4
17	FastPunk	4/4
18	Emo	4/4
19	TomTomBt	4/4
20	Funk1	4/4
21	Funk2	4/4
22	FunkRock	4/4
23	JazzFunk	4/4

No.	PatternName	TimSig
24	R&B1	4/4
25	R&B2	4/4
26	70's Soul	4/4
27	90's Soul	4/4
28	Motown	4/4
29	HipHop	4/4
30	Disco	4/4
31	Pop	4/4
32	PopRock	4/4
33	IndiePop	4/4
34	EuroPop	4/4
35	NewWave	4/4
36	OneDrop	4/4
37	Steppers	4/4
38	Rockers	4/4
39	Ska	4/4
40	2nd Line	4/4
41	Country	4/4
42	Shuffle1	4/4
43	Shuffle2	4/4
44	Blues1	4/4
45	Blues2	4/4
46	Jazz1	4/4

No.	PatternName	TimSig
47	Jazz2	4/4
48	Fusion	4/4
49	Swing1	4/4
50	Swing2	4/4
51	Bossa1	4/4
52	Bossa2	4/4
53	Samba1	4/4
54	Samba2	4/4
55	Breaks1	4/4
56	Breaks2	4/4
57	Breaks3	4/4
58	12/8 Grv	12/8
59	Waltz	3/4
60	JzWaltz1	3/4
61	JzWaltz2	3/4
62	CtWaltz1	3/4
63	CtWaltz2	3/4
64	5/4 Grv	5/4
65	Metro3	3/4
66	Metro4	4/4
67	Metro5	5/4
68	Metro	

ルーパーを使用する

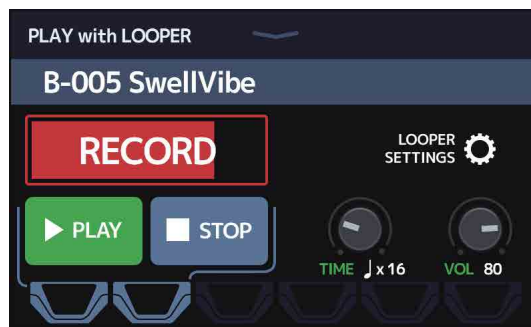
演奏したフレーズを録音して、最大でステレオ 5 分のループフレーズを作ることができます。

ルーパーを有効にする

ルーパーを有効にして、ルーパーを再生したり、ルーパーの設定をします。

1. ホーム画面で  をタッチする

ルーパーが有効になりタッチスクリーンにルーパー操作画面が表示されます。



タッチスクリーンやフットスイッチを使って、ルーパーの録音、再生、停止、設定を行うことができます。

ルーパーのテンポについて

- ルーパーのテンポはエフェクトやリズムと共有されています。
- テンポは [39 ページ「マスターテンポを調節する」](#) または [63 ページ「テンポを調節する」](#) で設定することができます。
- テンポを変更すると、録音データは消去されます。

ルーパーを設定する

ルーパーの各種設定を行います。

録音時間を設定する

フレーズの録音時間を設定します。

1. ルーパー操作画面 (→ [67 ページ](#)) で「TIME」つまみを上下にドラッグする



設定	説明
MANUAL	手動で録音を停止するか、最大録音時間に達するまで録音します。
♪ × 1 ~ 64	四分音符 1 拍 ~ 64 拍に設定します。実際に録音される時間は BPM (テンポ) の設定で決まります (→ 39 ページ 「マスターテンポを調節する」) 録音時間 (秒) = 60 ÷ BPM × 拍数

NOTE

- 設定範囲は MANUAL、四分音符 × 1 ~ 四分音符 × 64 です。
- ルーパーの録音時間は 1.5 秒から 5 分です (UNDO 機能 (→ [72 ページ](#)) OFF 時)。
- 録音範囲に収まらない場合、自動的に調節されます。
- 録音時間を変更すると、録音データは消去されます。

音量を調節する

ルーパーの音量を調節します。

1. ルーパー操作画面 (→ [67 ページ](#)) で「VOL」つまみを上下にドラッグする



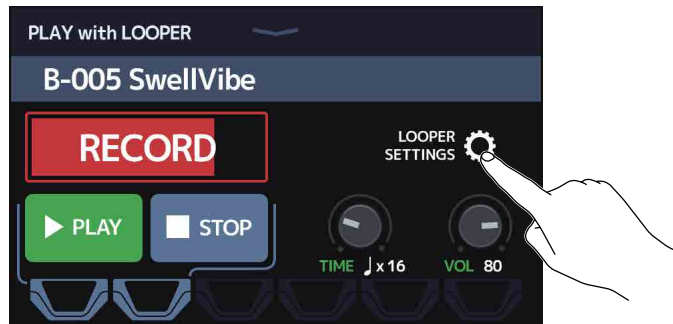
HINT

0 ~ 100 の範囲で調節できます。

ルーパーの位置を変更する

ルーパーの位置を変更することができます。

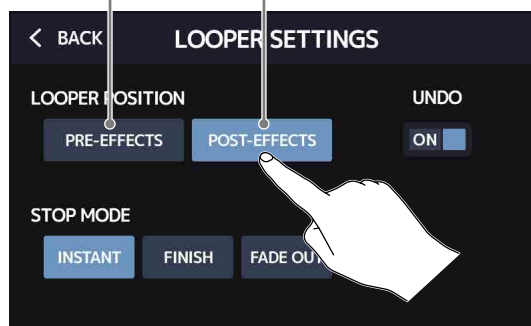
1. ルーパー操作画面 (→ [67 ページ](#)) で「LOOPER SETTINGS」をタッチする



2. お好みのルーパーの位置をタッチする

ルーパーの位置をエフェクトの前に設定します。

ルーパーの位置をエフェクトの後に設定します。



HINT

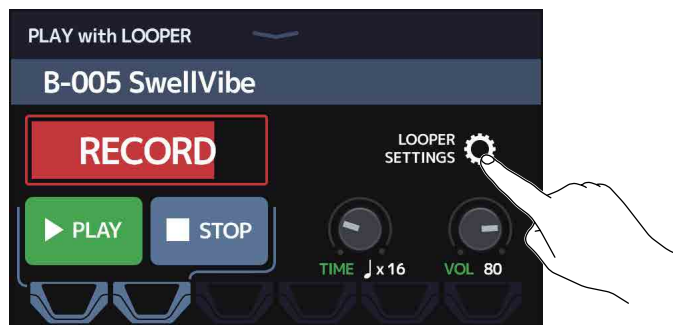
ルーパーの位置をエフェクトの前にして一度演奏した音をループさせれば、楽器を演奏しなくても音作りをすることができます。



停止方法を設定する

ループ再生の停止操作をしたときの停止方法を設定することができます。

1. ルーパー操作画面 (→ [67 ページ](#)) で「LOOPER SETTINGS」をタッチする

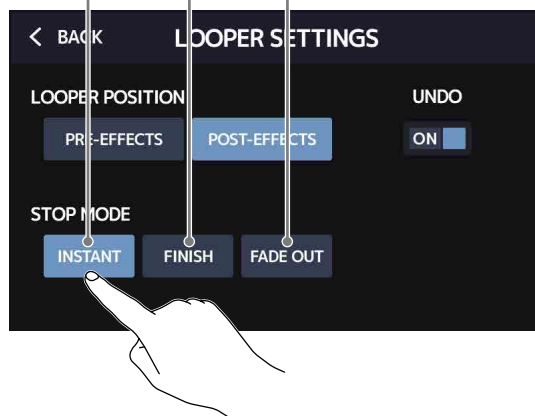


2. お好みの停止方法をタッチする

停止操作直後に停止します。

ループを最後まで再生してから停止します。

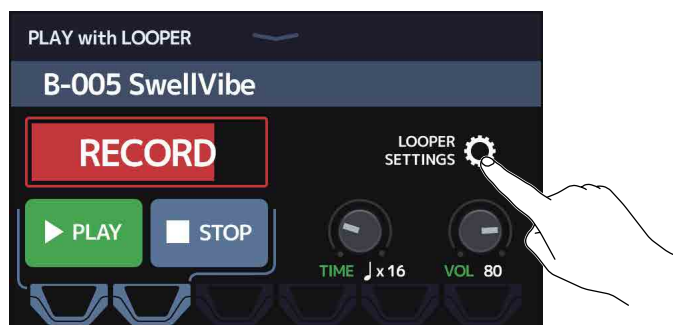
ループをフェードアウトしてから停止します。



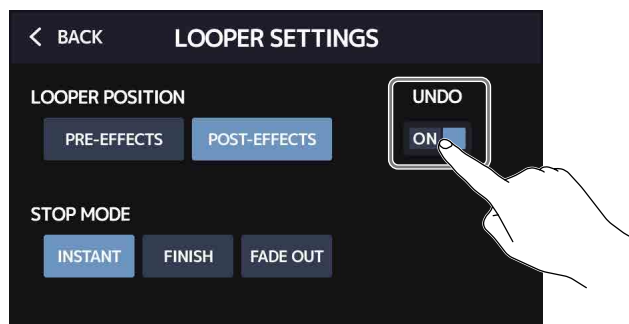
UNDO 機能の ON/OFF を設定する

UNDO 機能 (→ [75 ページ](#)) の ON/OFF を設定することができます。

1. ルーパー操作画面 (→ [67 ページ](#)) で「LOOPER SETTINGS」をタッチする



2. 「UNDO」をタッチして ON/OFF を切り換える
タッチする度に ON/OFF が切り換わります。



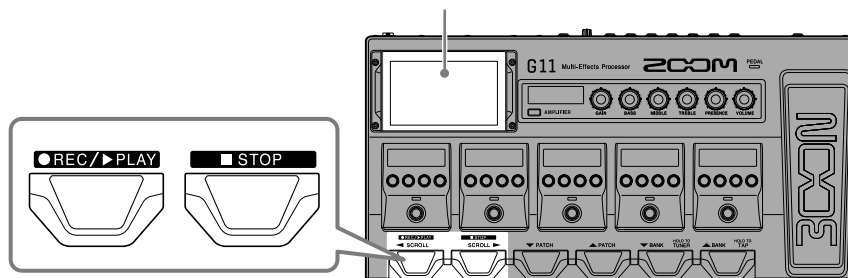
設定	説明
OFF	UNDO 機能を無効にします。
ON	UNDO 機能を有効にします。


NOTE

UNDO 機能を ON にした場合、録音時間は 2 分 30 秒となります。


フレーズを録音／再生する

ルーパーの状態を表示します。




1. ルーパー操作画面表示中に  を押す
フレーズの録音が始まります。



録音中に  を押すと、録音をキャンセルします。

2. 録音を停止してループ再生を開始する


録音時間が“MANUAL”に設定されている場合

 をもう一度押すか、最大録音時間に達すると、録音を停止してループ再生が開始されます。

録音時間が“↓×1～64”に設定されている場合

設定した録音時間が経過すると録音を停止してループ再生が開始されます。



3.  を押す
ループ再生が停止します。



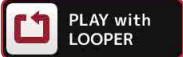
4. 録音したフレーズのループ再生を開始する

停止中に  を押します。

NOTE

- プリカウント機能を ON にすると (→ 62 ページ「プリカウントを設定する」)、プリカウント後に録音が始まります。
- ループ再生中にリズムのテンポを変更すると、録音したフレーズは削除されます。
- AUX IN 端子から入力された音は録音されません。

HINT

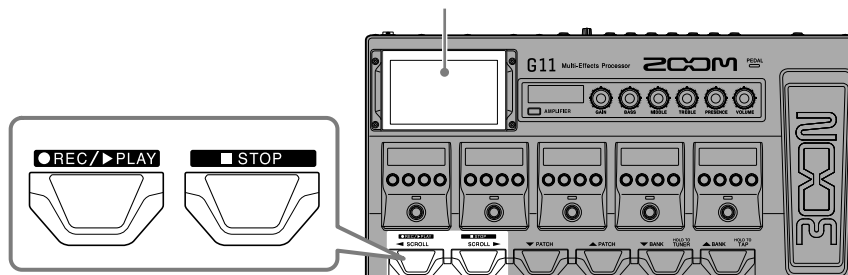
- リズム再生中はクオンタイズが有効になり、録音終了のタイミングが多少ずれても、自動的に補正され正確なタイミングでループ再生されます。
- ループ再生中にホーム画面に戻ると、ループを再生したままパッチメモリーを選択したり、リズムを使用するなど他の操作を行うことができます。他の操作をしているときにループ再生を停止する場合は、ホーム画面で  をタッチしてから停止操作を行ってください。
- フットスイッチの代わりに、画面をタッチして操作することもできます。




フレーズのオーバーダビング

録音したフレーズに、別の演奏を重ねて録音します。

ルーパーの状態を表示します。




1. フレーズの再生中に  を押す

オーバーダビングが開始されます。

フレーズを最後まで再生した後は、フレーズの先頭に戻ってループ再生し、オーバーダビングを繰り返します。




2. オーバーダビング中に  を押す

オーバーダビングが終了し、フレーズの再生に戻ります。


■ 最後に重ねて録音したフレーズを取り消す (UNDO 機能)

UNDO 機能を使用する場合は、UNDO 機能を有効にしてください (→ [72 ページ「UNDO 機能の ON/OFF を設定する」](#))。

1. フレーズを再生中に  を 2 回押す



■ 取り消したフレーズを復活させる (REDO 機能)

1. フレーズを取り消した後に、もう一度  を 2 回押す



フレーズを消去する

1. ループ再生の停止中に  を長押しする
録音したフレーズが消去されます。

CLEAR

SEND/RETURNを使用する

SEND/RETURN用の端子に外部エフェクターを接続して使用することができます。

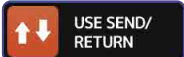
SENDやRETURNの位置は自由に設定でき、設定した内容はパッチメモリーごとに保存できます。

SEND/RETURN用の端子は2系統ありますので、2つのエフェクターを使用したり、ステレオ対応のエフェクターを使用することもできます。

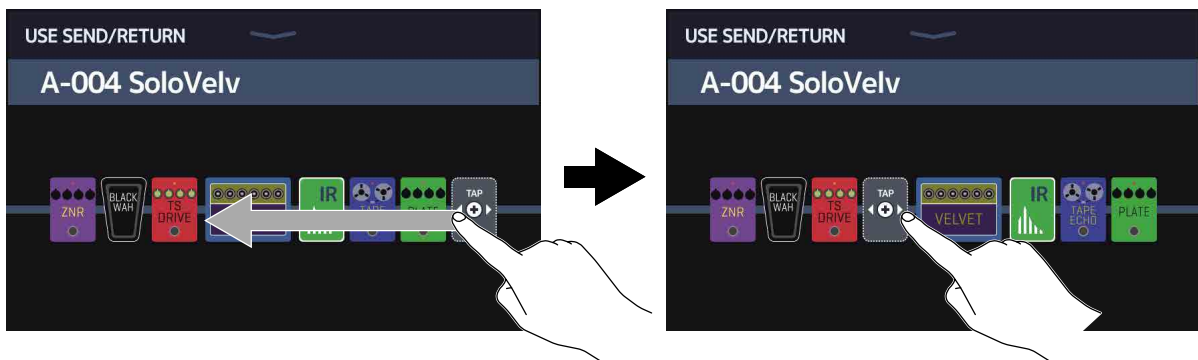
NOTE

SEND/RETURNはパッチメモリーのエフェクトとして扱いますので、最大エフェクト数にも影響します。
(→ 26 ページ「パッチメモリーのエフェクト数について」)

1. SEND/エフェクトを設定したいパッチメモリーを選択する

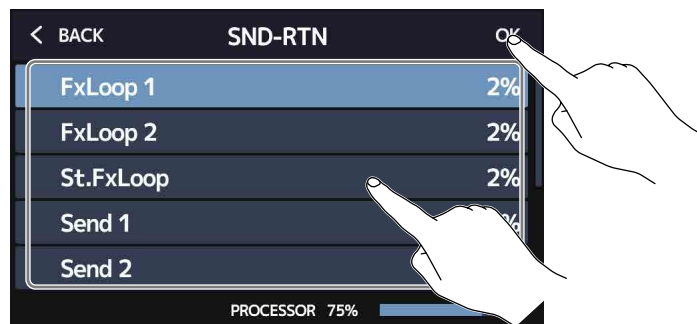
2. ホーム画面で  をタッチする

3. 「TAP」アイコンをドラッグしてSENDまたはRETURNを設定したい位置に移動し「TAP」アイコンをタッチする



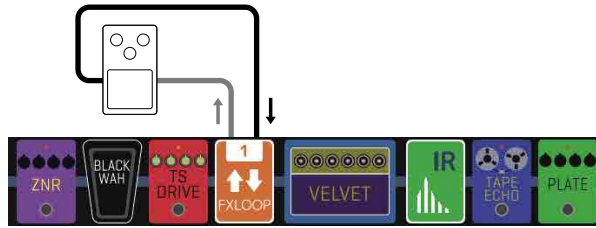
4. SEND/RETURNの設定をタッチして選択→「OK」をタッチする

以下の使用方法を参照して選択してください。



■「FxLoop 1」、「FxLoop 2」

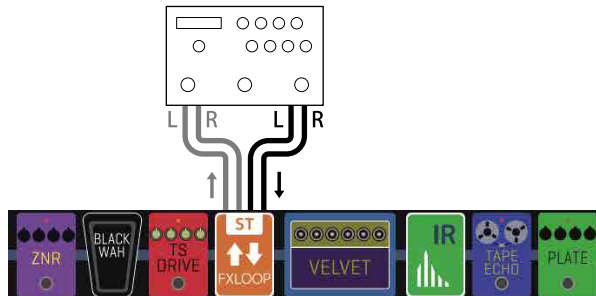
SEND／リターン選択画面で設定した位置から外部エフェクターへ信号を送り、同じ位置に戻します。



- 「FxLoop 1」：SEND-1 端子から信号を送り、RETURN-1 端子に信号を戻します。
- 「FxLoop 2」：SEND-2 端子から信号を送り、RETURN-2 端子に信号を戻します。

■「St.FxLoop」

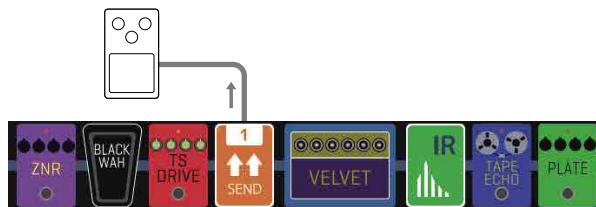
SEND／リターン選択画面で設定した位置から外部エフェクターへステレオ信号を送り、同じ位置に戻します。



- SEND-1/2 端子からステレオ信号を送り、RETURN-1/2 端子にステレオ信号を戻します。

■「Send 1」、「Send 2」

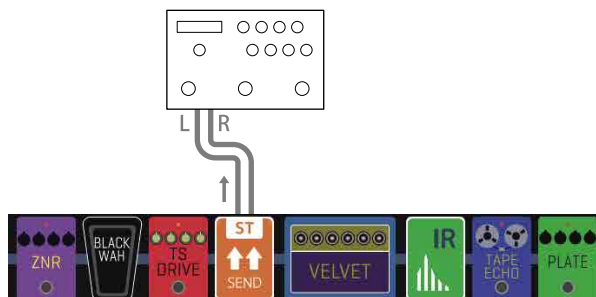
SEND／リターン選択画面で設定した位置から外部エフェクターへ信号を送ります。



- 「Send 1」：SEND-1 端子から信号を送ります。
- 「Send 2」：SEND-2 端子から信号を送ります。

■「St.Send」

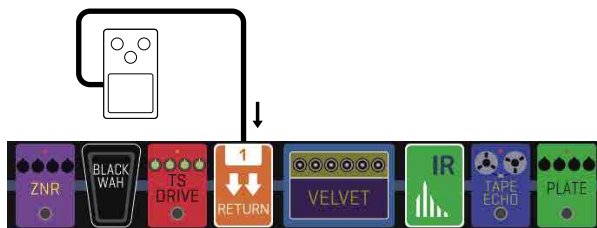
SEND／リターン選択画面で設定した位置から外部エフェクターへステレオ信号を送ります。



- SEND-1/2 端子からステレオ信号を送ります。

■「Return 1」、「Return 2」

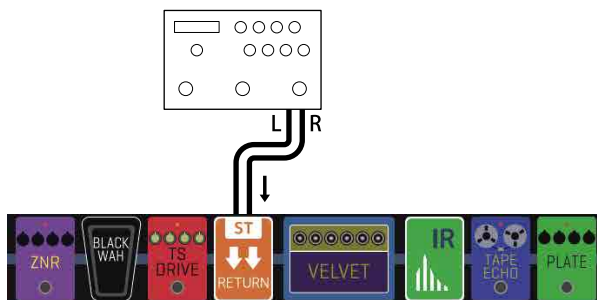
SEND/リターン選択画面で設定した位置に外部エフェクターから信号を戻します。



- 「Return 1」： RETURN-1 端子に信号を戻します。
- 「Return 2」： RETURN-2 端子に信号を戻します。

■「St.Return」

SEND/リターン選択画面で設定した位置に外部エフェクターからステレオ信号を戻します。



- RETURN-1/2 端子にステレオ信号を戻します。

NOTE

- SEND/リターンを削除するには：→ [33 ページ「エフェクトを削除する」](#)
- SEND/リターンを変更するには：→ [24 ページ「アンプ/エフェクトを変更する」](#)

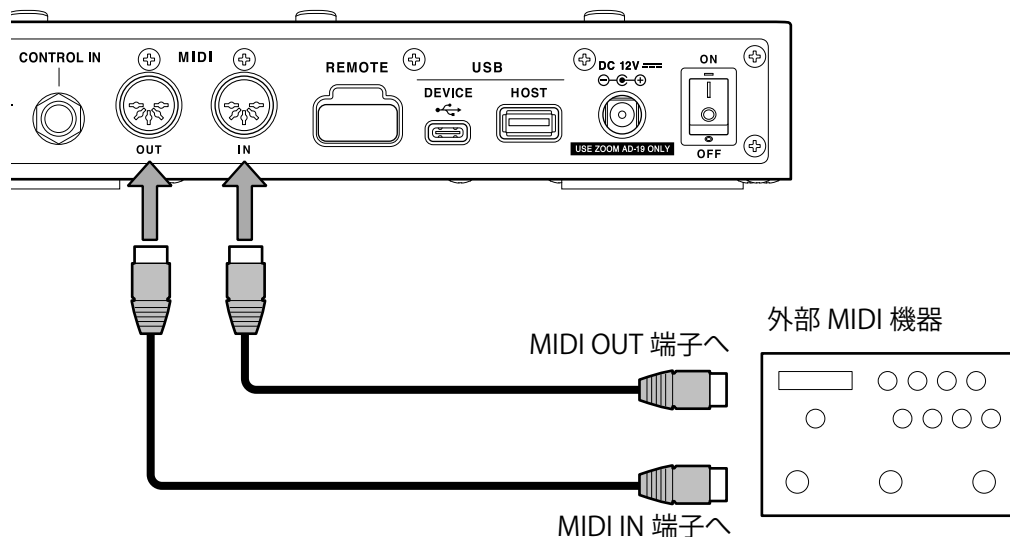
HINT

エフェクト追加画面からSEND/リターンを追加することもできます。(→ [31 ページ「エフェクトを追加する」](#))

MIDI 機器を接続する

MIDI 機器を接続してできること

G11 に MIDI 機器を接続すると、お互いに操作をやり取りすることができます。



■ G11 からできること

- G11 のパッチメモリー切り替え操作に合わせて MIDI 機器の設定を切り替える
- G11 内蔵のテンポで MIDI 機器のディレイやモジュレーションエフェクトと同期する

■ MIDI 機器からできること

- MIDI 機器から G11 のパッチメモリーを切り替える
- MIDI 機器のテンポで G11 のディレイやモジュレーションエフェクトと同期する

パッチメモリのMIDI送信設定を行う

パッチメモリーごとにMIDI送信の設定をします。

1. MIDI送信を設定したいパッチメモリーを選択する

2. ホーム画面で または をタッチする

パッチメモリーを選択したときに、送信されるMIDI情報について設定します。

■MIDI情報を送信するチャンネルを設定する

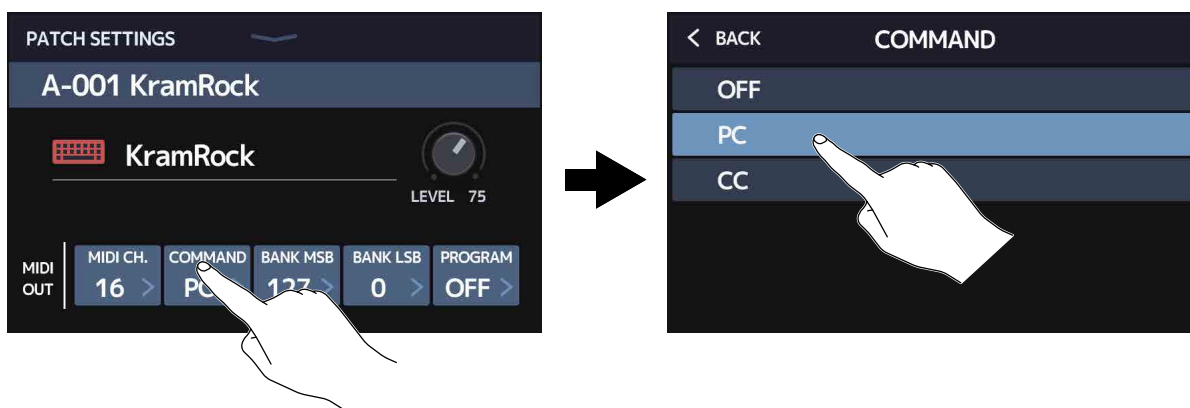
「MIDI CH.」をタッチして、設定したいチャンネルをタッチします。



「BASE」に設定すると、[83 ページ「MIDI情報を受信するチャンネルを設定する」](#)で設定したチャンネルで送信します。

■送信するMIDI情報の種類を設定する

「COMMAND」をタッチして、設定したいMIDI情報の種類をタッチします。



設定	説明
OFF	MIDI情報を送信しません。
PC	プログラムチェンジ情報を送信します。
CC	コントロールチェンジ情報を送信します。

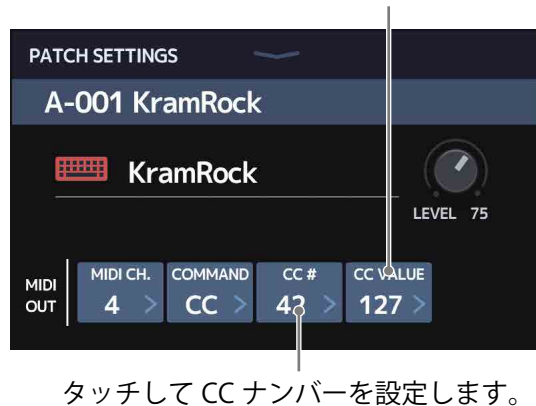
「PC」を選択した場合は、以下詳細設定を行います。

タッチしてバンク LSB を設定します。



「CC」を選択した場合は、以下詳細設定を行います。

タッチして CC バリューを設定します。



NOTE

「MIDI PROGRAM CHANGE SEND」を「OFF」に設定している場合は、MIDI 情報は送信されません。(→ [85 ページ「外部 MIDI 機器へプログラムチェンジ情報を送信する／しないを設定する」](#))

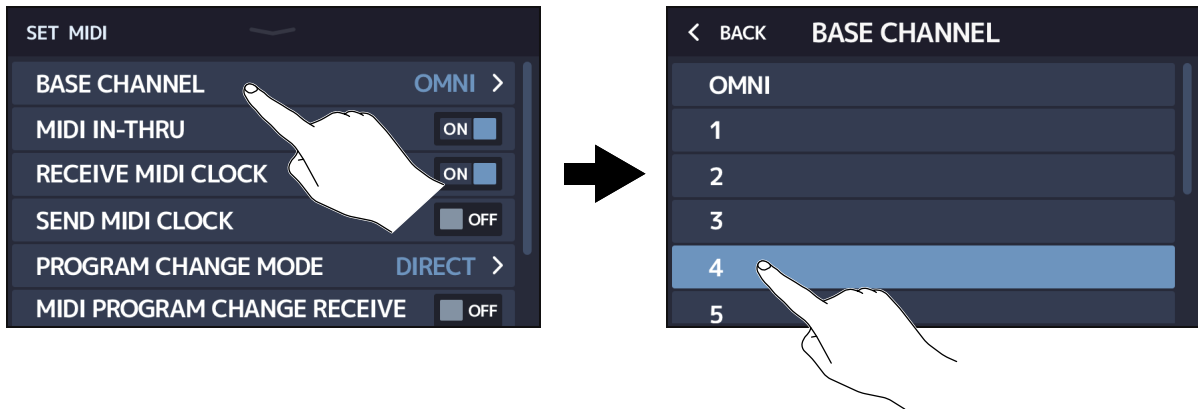
その他の MIDI 設定を行う

G11 の MIDI 設定を行います。

1. ホーム画面で  SET MIDI をタッチする

■ MIDI 情報を受信するチャンネルを設定する

「BASE CHANNEL」をタッチして、設定したいチャンネルをタッチします。



「OMNI」に設定すると、全てのチャンネルを受信します。

■ MIDI IN 端子から受信した MIDI 情報を MIDI OUT 端子から送信する／しないを設定する

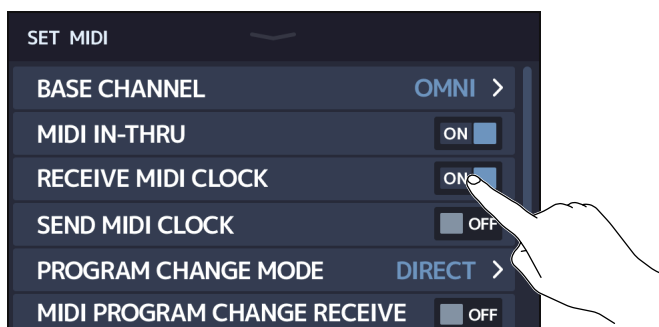
「MIDI IN-THRU」のスイッチをタッチして、ON/OFF を切り替えます。



設定	説明
OFF	送信しません。
ON	送信します。

■外部 MIDI 機器からクロック情報を受信する／しないを設定する

「RECEIVE MIDI CLOCK」のスイッチをタッチして、ON/OFF を切り替えます。



設定	説明
OFF	受信しません。
ON	受信します。(G11 は外部機器のテンポに同期します。)

■外部 MIDI 機器へクロック情報を送信する／しないを設定する

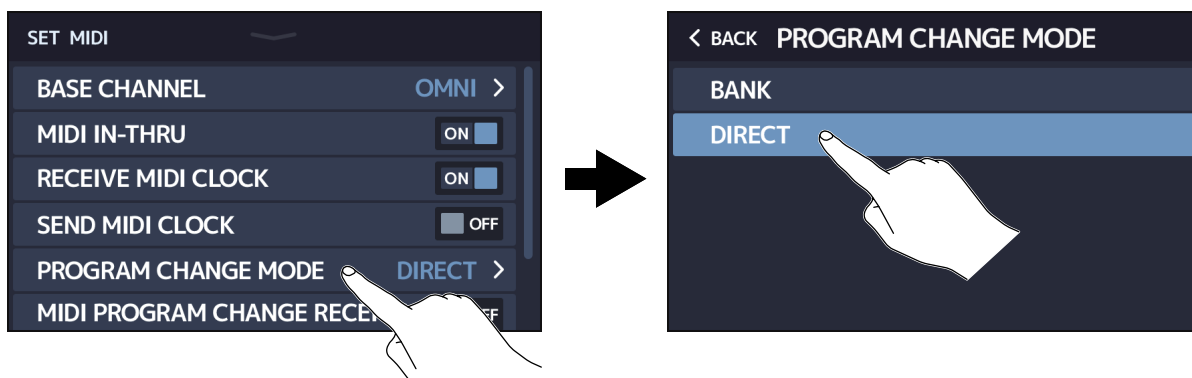
「SEND MIDI CLOCK」のスイッチをタッチして、ON/OFF を切り替えます。



設定	説明
OFF	送信しません。
ON	送信します。(外部機器は G11 のテンポに同期します。)

■プログラムチェンジ情報の受信のしかたを設定する

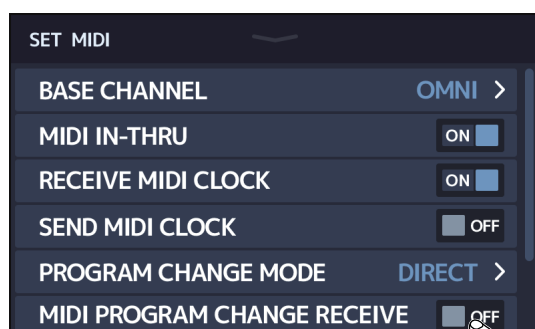
「PROGRAM CHANGE MODE」をタッチして、設定したい受信のしかたをタッチします。



設定	説明
BANK	通常はこちらを選択します。
DIRECT	外部 MIDI 機器がバンクチェンジ情報を送信できないときに選択します。

■外部 MIDI 機器からプログラムチェンジ情報を受信する／しないを設定する

「MIDI PROGRAM CHANGE RECEIVE」のスイッチをタッチして、ON/OFF を切り替えます。



設定	説明
OFF	受信しません。
ON	受信します。

■外部 MIDI 機器へプログラムチェンジ情報を送信する／しないを設定する

「MIDI PROGRAM CHANGE SEND」のスイッチをタッチして、ON/OFF を切り替えます。



設定	説明
OFF	送信しません。
ON	送信します。

インパルス・レスポンス (IR) を使用する

インパルス・レスポンスとは、空間の音響特性をキャプチャしてデータ化したものです。


スピーカーキャビネットから出力されるギターの音をマイクで収録した際の音響特性をキャプチャすることによって、様々なスピーカーキャビネットの特長がデータ化され、エフェクトとして使用することができます。スピーカーキャビネットから出力することなく、リアルなギターサウンドを再現することができます。

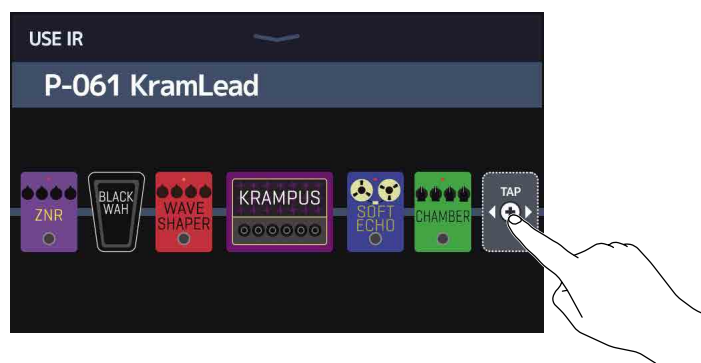
G11 では、インパルス・レスポンスデータをあらかじめ 70 個用意しています。

また、お手持ちのインパルス・レスポンスデータやサードパーティ製インパルス・レスポンスデータを読み込んで使用することもできます。

インパルス・レスポンス (IR) を使用する

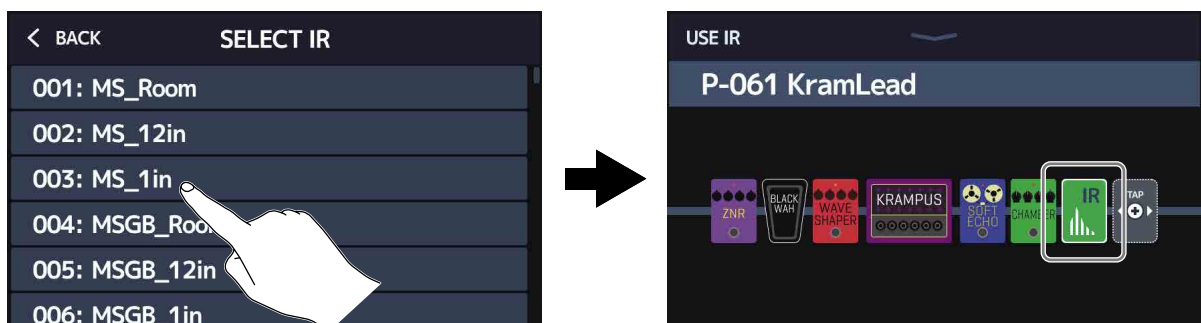
パッチメモリーにインパルス・レスポンスを割り当てます。

1. インパルス・レスポンスを使用したいパッチメモリーを選択する
2. ホーム画面で  をタッチする
3. 「TAP」アイコンをタッチする



「TAP」アイコンをドラッグしてインパルス・レスポンスを設定したい位置を移動することもできます。

4. 使用したいインパルス・レスポンスをタッチする



選択したインパルス・レスポンスが追加されます。

インパルス・レスポンス (IR) データを読み込む

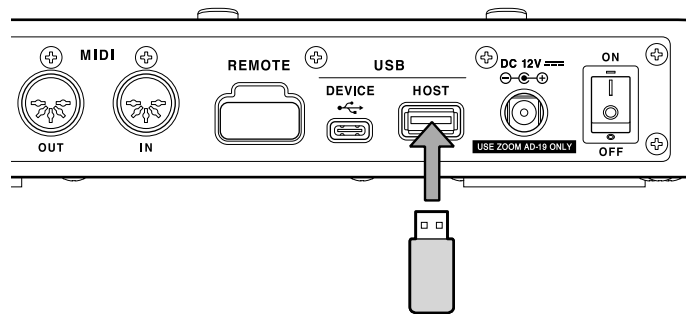
お手持ちのインパルス・レスポンスデータやサードパーティ製インパルス・レスポンスデータを読み込みます。

NOTE

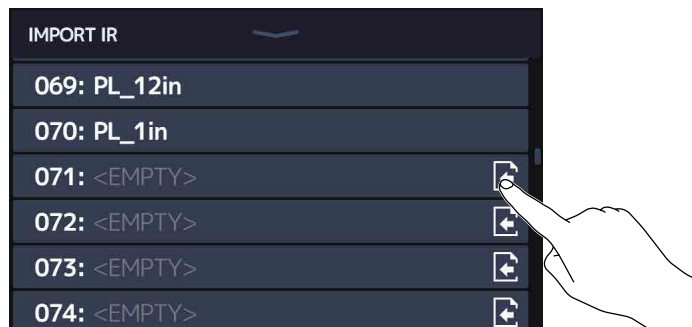
以下の形式のインパルス・レスポンスデータが読み込み可能です。

- ・形式：WAV
- ・サンプリング周波数：44.1 kHz ~ 192 kHz

1. インパルス・レスポンスデータを USB メモリにコピーする
2. USB メモリを USB HOST 端子に接続する



3. ホーム画面で  **IMPORT IR** をタッチする
4. 割り当てたい場所の  をタッチする



「001」～「070」にはあらかじめインパルス・レスポンスデータが割り当てられています。「071」～「200」にお好みのインパルス・レスポンスを割り当てることができます。

5. 割り当てたいインパルス・レスポンスをタッチする



6. をタッチしてキーボードを表示させ、インパルス・レスポンス名を入力する

文字入力エリア
入力位置を示すカーソルが表示されます。

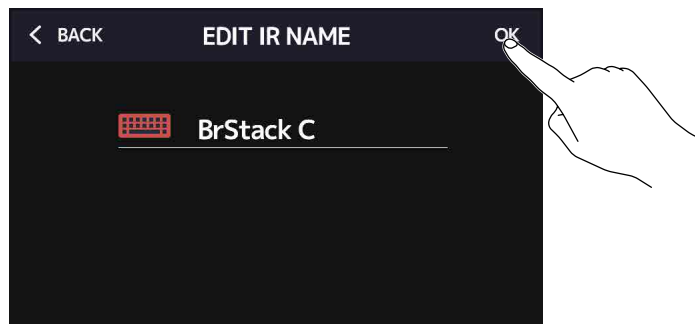


NOTE


使用可能な文字／記号は次の通りです。

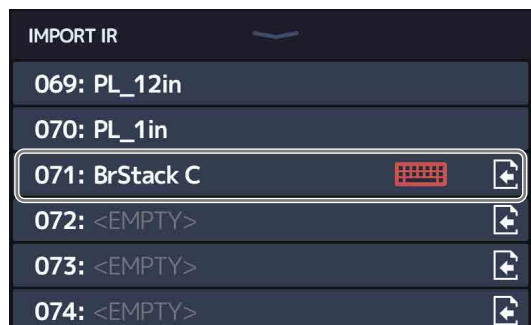
! # \$ % & ' () + , - . ; = @ [] ^ _ ` { } ~ (space) A-Z, a-z, 0-9

7. をタッチしてインパルス・レスポンス名を確定し、「OK」をタッチする



選択したインパルス・レスポンスが割り当てられます。

 をタッチすると名前を変更することができます。



オーディオインターフェース機能を使用する

G11 は 4in4out のオーディオインターフェースとして動作します。

エフェクト処理前、処理後それぞれ 2 チャンネルずつ、合計 4 チャンネルをパソコンに送ります。パソコンからは、エフェクト処理前、処理後の位置にそれぞれ 2 チャンネルずつ入力します。入出力の位置については [7 ページ「信号の流れ」](#) を参照してください。

ドライバをインストールする

■ Windows

1. www.zoom.co.jp からパソコンに「ZOOM G11 Driver」をダウンロードする

NOTE

最新の「ZOOM G11 Driver」は上記 WEB サイトからダウンロードできます。

2. インストーラーを起動して、ドライバをインストールする指示に従って「ZOOM G11 Driver」をインストールします

NOTE

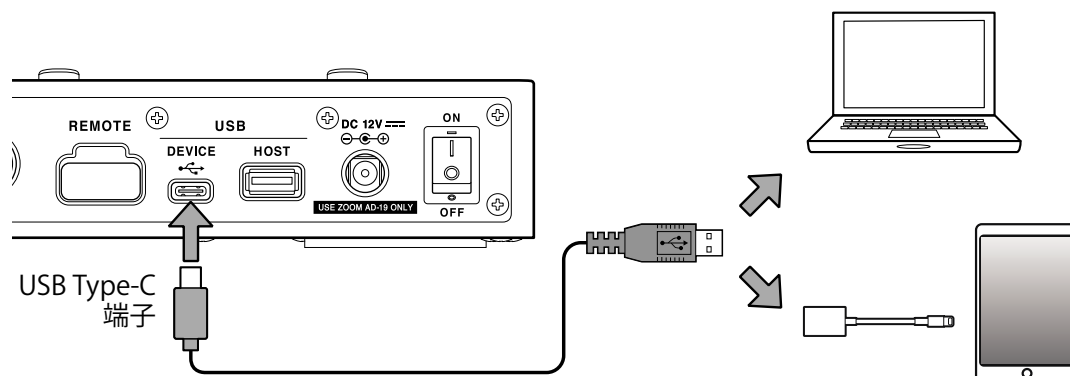
詳細なインストール手順については、ドライバパッケージに同封されている「InstallationGuide」を参照してください。

■ Mac または iOS/iPadOS デバイス

Mac または iOS/iPadOS デバイスで使用する場合、ドライバは必要ありません。

パソコンに接続する

1. G11 とパソコンまたは iOS/iPadOS デバイスを USB ケーブルで接続する



NOTE

Lightning コネクタを搭載した iOS/iPadOS デバイスと接続するには、Lightning - USB カメラアダプタ / Lightning - USB 3 カメラアダプタが必要です。

2. を "ON" にする

G11 が起動し、iOS/iPadOS デバイ스에接続されます。
パソコンの場合は、手順 3 に進んでください。

3. パソコンの場合は、サウンドデバイスに G11 を設定する

オーディオインターフェースの設定をする

録音レベルの調節やモニターバランスなどを設定できます。

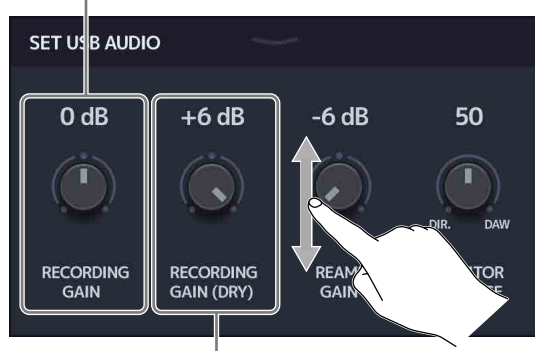
1. ホーム画面で  をタッチする

2. オーディオインターフェースの設定をする

■パソコンへ送る音量（録音レベル）を調節する

「RECORDING GAIN」(エフェクト処理後の音声) または「RECORDING GAIN (DRY)」(エフェクト処理前の音声) つまみを上下にドラッグして録音レベルを調節します。設定値はつまみの上に表示されます。

エフェクト処理後の録音レベルを調節します。



エフェクト処理前の録音レベルを調節します。

HINT

- 設定範囲は - 6 dB ~ + 6 db です。
- 「RECORDING GAIN」(エフェクト処理後の音声)、「RECORDING GAIN (DRY)」(エフェクト処理前の音声) それぞれ 2 チャンネルずつ、計 4 チャンネルの音声をパソコンへ送ります。

■パソコンから入力する音量を調節する

「REAMP GAIN」つまみを上下にドラッグして入力レベルを調節します。設定値はつまみの上に表示されます。



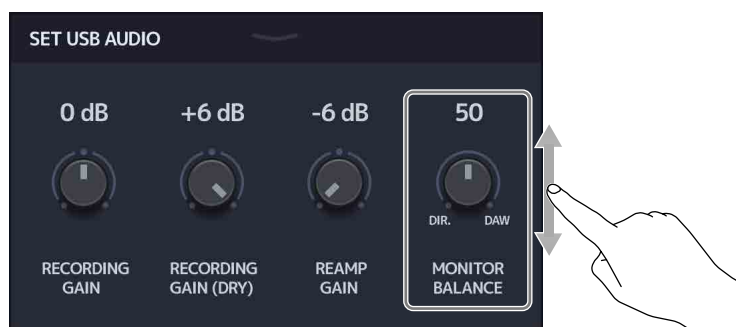
HINT

- 設定範囲は - 6 dB ~ + 6 db です。
- エフェクト処理前、エフェクト処理後の位置にそれぞれ 2 チャンネルずつ、計 4 チャンネルの音声をパソコンから入力します。

■ モニターのバランスを調節する

パソコンからの出力信号と、ダイレクト信号（G11の音声）のバランスを調節します。

「MONITOR BALANCE」つまみを上下にドラッグしてバランスを調節します。設定値はつまみの上に表示されます。



HINT

設定範囲は0～100です。

「0」でダイレクト信号のみ、「100」でパソコンからの出力信号のみとなります。

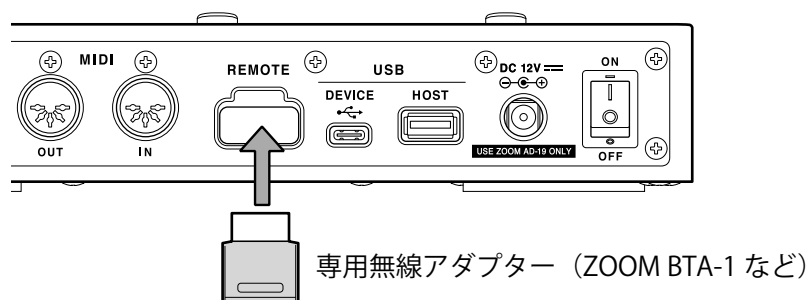
iOS/iPadOS デバイスと接続する

専用無線アダプター（ZOOM BTA-1 など）を接続すると、iOS/iPadOS アプリケーション Guitar Lab を使って、iPhone/iPad からワイヤレスで **G11** を操作できます。

NOTE

- **G11** の電源を ON にする前に、専用無線アダプター（ZOOM BTA-1 など）を取り付けてください。
- 専用アプリは App Store からダウンロードしてください。

1. **G11** の電源を OFF にした状態で、専用無線アダプター（ZOOM BTA-1 など）を取り付ける



2. を "ON" にする

3. iPhone/iPad 上で、Guitar Lab を起動する

4. Guitar Lab の設定画面で、接続操作を行う



HINT

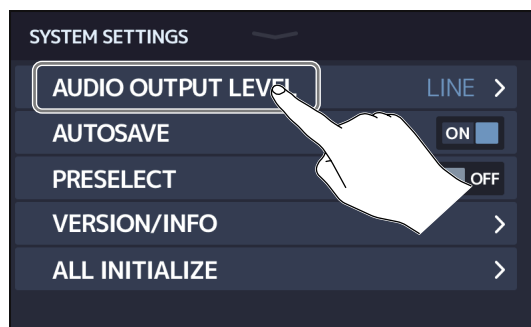
Guitar Lab の設定や操作の方法については、Guitar Lab のマニュアルを参照してください。

本体の設定をする

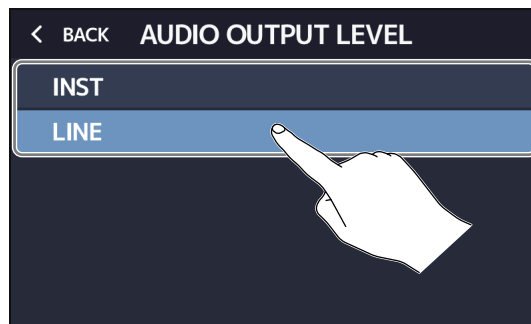
出力の基準レベルを設定する

G11 の出力を出力機器に合わせたレベルに設定します。

1. ホーム画面で  または  をタッチする
2. 「AUDIO OUTPUT LEVEL」をタッチする



3. お好みの設定をタッチする

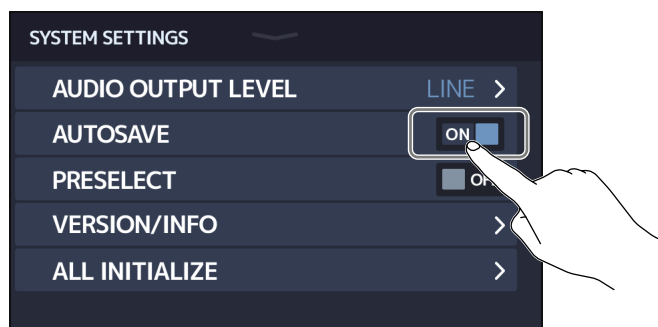


設定	説明
INST	ギターアンプに接続しているとき
LINE	モニタースピーカー、PA システムなどライン入力の機器に接続しているとき

オートセーブを設定する

オートセーブ機能を ON にすると、パッチメモリーの内容を変更したときに自動で保存することができます。

1. ホーム画面で  または  をタッチする
2. 「AUTO SAVE」の切換スイッチをタッチして ON/OFF を切り換える
タッチする度に ON/OFF が切り換わります。



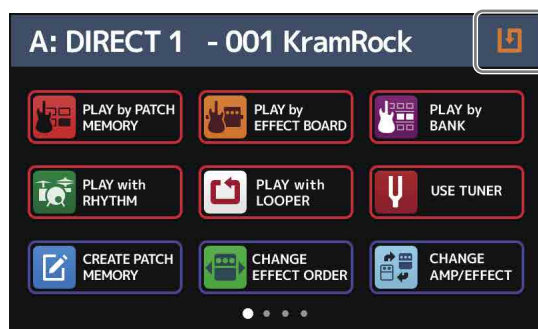
設定	説明
ON	オートセーブ機能を ON にします。
OFF	オートセーブ機能を OFF にします。

HINT


オートセーブ機能を OFF にした場合はパッチメモリーは自動で保存されません。

パッチメモリーの内容を変更すると、画面右上に  アイコンが表示され保存されている設定から変わったことを示します。


アイコンをタッチするとパッチメモリーを保存する画面が表示されますので、必要に応じて保存してください。
(→ [40 ページ「パッチメモリーを保存する」](#))



プリセレクトを設定する

プリセレクト機能を ON にすると、 でバンクを切り替えたときにスタンバイ状態とし、パッチメモリーを選択したときにパッチメモリーの変更が確定します。

離れたパッチメモリーを直接選択することができ、ライブ演奏時に便利です。

1. ホーム画面で  をタッチする
2. 「PRESELECT」の切換スイッチをタッチして ON/OFF を切り換える
タッチする度に ON/OFF が切り換わります。



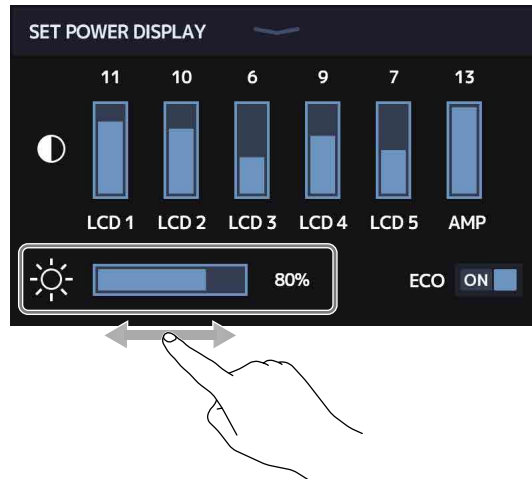
設定	説明
ON	プリセレクト機能を ON にします。
OFF	プリセレクト機能を OFF にします。

ディスプレイの明るさ、コントラストを調節する

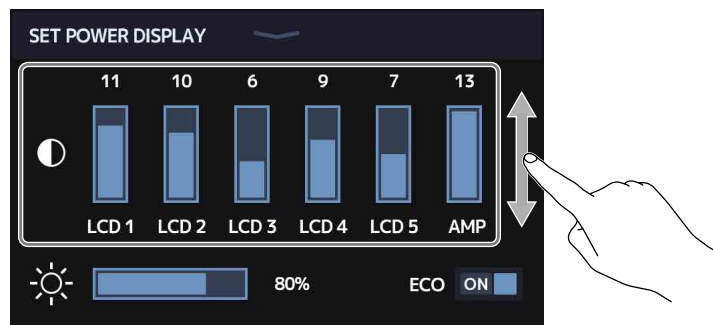
タッチスクリーンの明るさや、アンプセクションやエフェクトセクションのディスプレイのコントラストを調節することができます。

1. ホーム画面で  をタッチする

2. タッチスクリーンの明るさを調節する
左右にドラッグして明るさを調節します。



3. ディスプレイのコントラストを調節する
上下にドラッグしてコントラストを調節します。

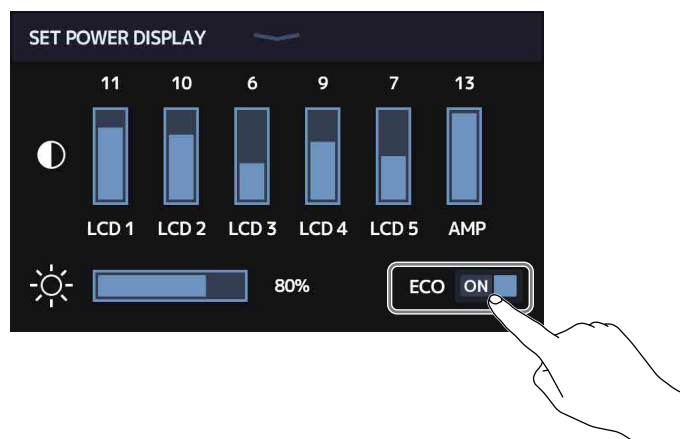


調節できるディスプレイ	説明
LCD 1～5	エフェクトセクションのディスプレイ
AMP	アンプセクションのディスプレイ

ECO モードを設定する

操作をやめてから 10 時間経過すると自動的に電源が切れるように設定します。

1. ホーム画面で  をタッチする
2. 「ECO」の切換スイッチをタッチして ON/OFF を切り換える
タッチする度に ON/OFF が切り換わります。



調節できるディスプレイ	説明
ON	操作をやめてから 10 時間経過すると自動的に電源が切れます。
OFF	ECO モードを無効にします。

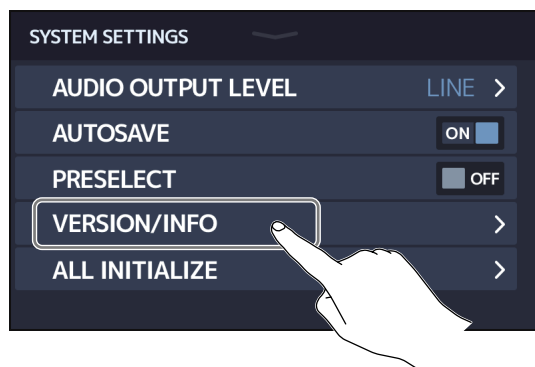
ファームウェアを管理する

ファームウェアのバージョンを確認する

G11 のファームウェアのバージョンを確認することができます。

1. ホーム画面で  をタッチする

2. 「VERSION/INFO」をタッチする



ファームウェアやプリセットのバージョンが表示されます。



— G11 のファームウェアバージョン

— DSP のバージョン

— プリセットのバージョン

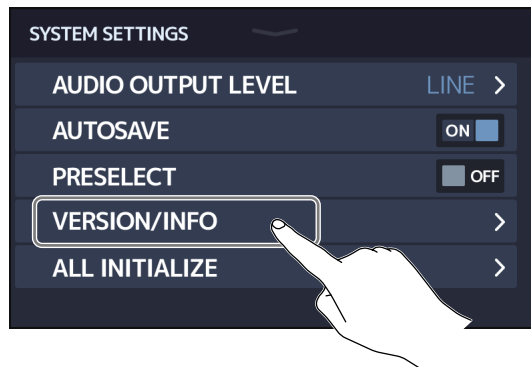
— BOOT のバージョン

ライセンス情報を確認する

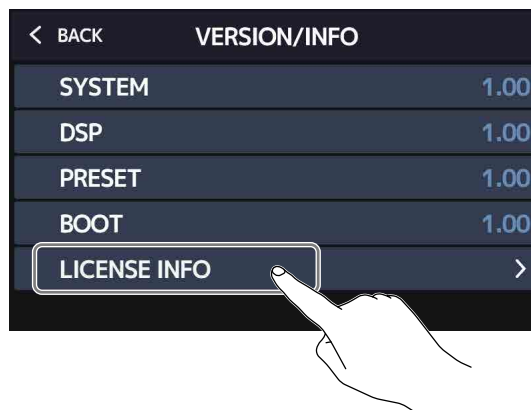
G11 のライセンス情報を確認することができます。

1. ホーム画面で  をタッチする

2. 「VERSION/INFO」をタッチする



3. 「LICENSE/INFO」をタッチする



G11 のライセンス情報が表示されます。



アップデートする

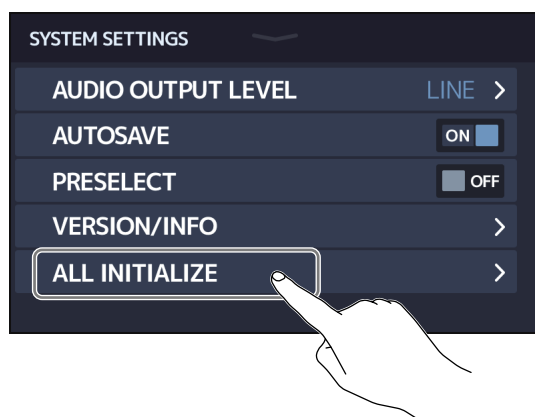
G11 のファームウェアを、最新のものにアップデートできます。

最新のファームウェアアップデート用ファイルは ZOOM の Web サイト (www.zoom.co.jp) からダウンロードできます。

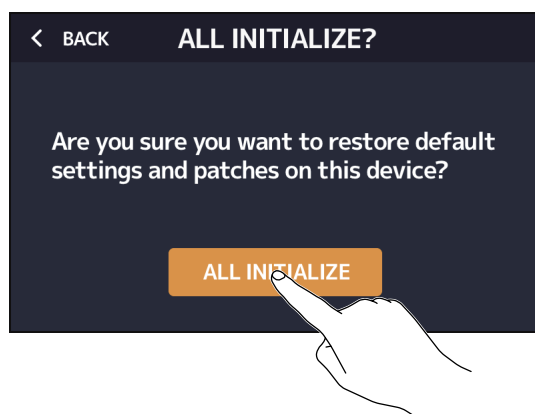
工場出荷時の設定に戻す

工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. ホーム画面で  をタッチする
2. 「ALL INITIALIZE」をタッチする



3. 「ALL INITIALIZE」をタッチする



初期化が実行され工場出荷時の設定に書き換え、G11 が通常起動します。

NOTE

初期化を実行すると、パッチメモリーを含むすべての設定が工場出荷時の設定に書き換えられます。この操作は慎重に行ってください。

HINT

初期化をキャンセルするには、手順3で「BACK」をタッチします。

故障かな？と思う前に

電源が入らない

- 電源スイッチが“ON”になっていることを確認する。
- 接続を確認する。(→ [17 ページ「接続する」](#))

音が出ない、非常に小さい

- 接続を確認する。(→ [17 ページ「接続する」](#))
- 各エフェクトのレベルを調節する。(→ [28 ページ「エフェクトを調節する」](#))
- パッチメモリのレベルを調節する。(→ [37 ページ「パッチメモリの音量を設定する」](#))
- アウトプットボリュームを調節する。(→ [19 ページ「全体の音量を調節する」](#))
- エクスプレッションペダルで音量の調節を行っている場合は、適切な音量になるようにペダルの位置を調節する。
- チューナーのアウトプットが“MUTE”になっていないことを確認する。(→ [57 ページ「チューナーを使用する」](#))

ノイズが多い

- シールドケーブルが正常であることを確認する。
- ZOOM 純正の AC アダプターを使用する。(→ [17 ページ「接続する」](#))

エフェクトがかからない

- エフェクトの処理量が制限を超えている場合、ディスプレイに“PROCESS OVERFLOW”と表示される。“PROCESS OVERFLOW”と表示されたエフェクトはバイパス状態になる。(→ [26 ページ「パッチメモリのエフェクト数について」](#))

エクスプレッションペダルがうまく動作しない

- ペダルエフェクトを選択する。(→ [51 ページ「内蔵のペダルを使用する」](#))
- エクスプレッションペダルの設定を確認する。(→ [51 ページ「内蔵のペダルを使用する」](#))
- エクスプレッションペダルを調節する。(→ [53 ページ「ペダルを調節する」](#))
- 外部ペダルの設定を確認する。(→ [55 ページ「外部ペダルを使用する」](#))

DAW に録音したレベルが小さい

- 録音レベルの設定値を確認する。(→ [91 ページ「オーディオインターフェースの設定をする」](#))

仕様

同時使用エフェクト数		AMPLIFIER + 9 EFFECTS
パッチユーザーエリア		240
サンプリング周波数		44.1 kHz
A/D 変換		24-bit 128 倍オーバーサンプリング
D/A 変換		24-bit 128 倍オーバーサンプリング
信号処理		32-bit
周波数特性		20 Hz ~ 20 kHz (+ 1 dB - 2 dB) (10 k Ω 負荷時)
ディスプレイ		5 インチ TFT カラー LCD (800 x 480 pixels) ドットマトリクス LCD (128 x 32 dots) x 6
入力	INPUT	標準モノラルフォーンジャック 定格入力レベル：-20 dBu 入力インピーダンス (ライン)：500 k Ω
	RETURN	標準モノラルフォーンジャック x 2 定格入力レベル：-20 dBu 入力インピーダンス (ライン)：1 M Ω
	AUX IN	ステレオミニジャック 定格入力レベル：-10 dBu 入力インピーダンス (ライン)：10 k Ω
出力	L/R	標準モノラルフォーンジャック 最大出力レベル： INST/LINE + 11.4 dBu / + 19 dBu (出力負荷インピーダンス 10 k Ω 以上時)
	PHONES	標準ステレオフォーンジャック 最大出力レベル： ライン + 11.4 dBu (出力負荷インピーダンス 10 k Ω 以上時) フォーン 24 mW + 24 mW (負荷 32 Ω 時)
	SEND	標準モノラルフォーンジャック x 2 最大出力レベル： ライン + 11.4 dBu (出力負荷インピーダンス 10 k Ω 以上時)
入力 S/N		123 dB
ノイズフロアー (残留ノイズ)	L/R	INST/LINE -99.5 dBu / -92.5 dBu
	SEND	-99.0 dBu
MIDI IN/OUT		5 ピン DIN ジャック
コントロール入力		FP02M 入力
電源		AC アダプター DC12 V センタープラス、2000 mA (ズーム AD-19)
USB		端子：USB2.0 Type-C / 対応ケーブル：Type-C ケーブル GuitarLab：USB1.1 Full Speed オーディオインターフェース：USB2.0 High Speed、44.1 kHz/32-bit 4in 4out ※データ転送に対応した USB ケーブルを使用してください。USB バスパワー動作非対応。
USB HOST		端子：USB2.0 Type-A / 規格：USB 2.0 High Speed ※ USB メモリーを使用してください。
REMOTE		専用無線アダプター (ZOOM BTA-1 など)
外形寸法		253 mm (D) x 495 mm (W) x 64 mm (H)
重量		2.8 kg

※ 0 dBu = 0.775 V

MIDI インプリメンテーションチャート

[Multi-Effects Processor]

Model : G11

MIDI Implementation Chart

Date : 16.Mar.2020

Version :1.00

Function ...		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1 - 16 1 - 16	1 - 16 1 - 16	Memorized
Mode	Default Messages Altered	x x *****	x x	
Note Number	True voice	x *****	x	
Velocity	Note ON Note OFF	x x	x x	
After Touch	Key's Ch's	x x	x x	
Pitch Bend		x	x	
Control Change	0 - 127	o *1	x	
Prog Change	True#	o 0 - 127 *****	o 0 - 127 0 - 127	
System Exclusive		x	x	
System Common	Song pos Song Sel Tune	x x x	x x x	
System Realtime	Clock Command	o x	o x	
Aux Messages	Local ON/OFF All Notes OFF Active Sense Reset	x x x x	x x x x	
Notes	*1 Values sent by MIDI Output can be changed using the "SET MIDI OUT" setting.			

Mode 1 : OMNI ON, POLY
Mode 3 : OMNI OFF, POLY

Mode 2 : OMNI ON, MONO
Mode 4 : OMNI OFF, MONO

o : Yes
x : No

zoom[®]

株式会社ズーム

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-4-3
www.zoom.co.jp

Z2I-3885-01